

令和3年度

階上灯台改良改修工事

仕様書

第二管区海上保安本部

I 工 事 概 要

1. 工事件名 階上灯台改良改修工事
2. 工事場所 階上灯台・・・・・・・・・・青森県三戸郡階上町
3. 工事期間 契約日から令和3年11月30日まで
4. 工事概要 灯塔改修工事 一式
5. 管理事務所 八戸海上保安部 交通課
〒031-0831
青森県八戸市築港街2-16
電話：0178-32-4691
6. 発注元 第二管区海上保安本部 交通部整備課
〒985-8507
宮城県塩竈市貞山通3-4-1
電話：022-363-0111（代表）（内線2664）

Ⅱ 一般共通事項

1. 適用事項

本仕様書に記載されていない事項や詳細については、次による最新版とする。

国土交通省大臣官房官庁営繕部監修

「公共建築工事標準仕様書（建築工事編）」

「公共建築改修工事標準仕様書（建築工事編）」

2. 撤去材及び 発生材の処理

撤去材及び発生材のうち、引継ぎを必要とするものは、整理のうえ「撤去品等発生通知書」を2部提出して確認を受け、監督の指示に従うものとする。

引継ぎを必要としないものについては、監督職員の指示による。

- (1) 保管及び廃棄は確実にを行う。
- (2) 廃棄処分する物は「廃棄物の処理及び清掃に関する法律」等、関連法令に従い適法に処理する。
- (3) 再使用する物については、指定する場所へ遅滞なく届ける。

3. 官給品

本工事において、官給品がある場合は監督職員の指示により、現場代理人又は主任技術者は次の処置をとる。

- (1) 官給品の受渡しについては、監督職員の立会いのもと数量等の確認を行い状態を点検して異常の有無を確認する。
- (2) 官給品の引渡しを受ける際には、現場に立会い、「官給品受領書」を2部提出する。
- (3) 官給品の保管場所・保管方法及び使用状況について指示を受けたときは、その指示に従う。
- (4) 官給品の使用が終了した場合は、「官給品精算書」を2部提出して確認を受ける。

4. 工事報告

工事の進捗・材料の搬出入・作業員の作業状況・気象状況などを記載した報告書を原則として、監督職員に提出する。

5. 疑義等の協議	工事内容に疑義を生じた場合に及び現場の納まり又は取合い等の関係で、設計図書によることが困難な場合もしくは不都合な場合は、監督職員と協議する。
6. 諸届け、打合せ	請負者は、工事に必要な諸届け、申請を速やかに行う。
7. 臨機の処置	災害または公害が発生した場合は速やかに適切な処置をとり直ちにその経緯を監督職員に報告する。
8. 現場代理人及び主任技術者	<p>(1) 現場代理人及び主任技術者とは、工事請負契約書に規定する現場代理人及び主任技術者をいう。</p> <p>(2) 主任技術者は、次のいずれかの資格を有するものとする。</p> <p>1 級又は2 級建築士</p> <p>1 級又は2 級建築施工管理技士</p> <p>1 級又は2 級土木施工管理技士</p> <p>(3) 現場代理人及び主任技術者の経歴書を監督職員に提出する。</p>
9. 工程表・施工計画書	着工に先立ち実施工程表及び施工計画書を作成し、監督職員の承諾を受けること。ただし、軽微な工事で監督職員の指示による場合には省略できるものとする。
10. 工事完成図書	<p>工事完成後、次の(1)から(4)の内容をA4ファイルに整理して1部を監督職員に提出する。</p> <p>特に工事完成後、外部から確認できない部分の撮影を忘れぬように十分注意するとともに、被写体の寸法が判明するようスケール、ポール及び箱尺などを使用し撮影する。</p> <p>(1) 工事概要</p> <p>(2) 完成図書(竣工図は、A3版縮小版とし、電子データ「JW-CAD」含む。)</p> <p>(3) 工事写真(施工前、施工中、施工後及び完成写真)</p> <p>(4) その他参考資料</p>
11. 施設の保全	工事中は、各種機器また既存部分に支障を与えないよう十分な養生を行う。

<p>階上灯台改良改修 工事特記仕様書</p> <p>I 工事概要</p> <p>1. 工事場所 青森県三戸郡階上町(階上灯台)</p> <p>2. 敷地面積 -</p> <p>3. 工事種目 灯台 鉄筋コンクリート造 4階建て 改修1棟</p> <p>4. 工事内容 1:耐震補強工事 2:防水改修工事 3:内装、建具改修工事 4:外構改修工事</p> <p>5. 工事範囲 図示による</p> <p>II 建築改修工事仕様</p> <p>(1) 図面及び本特記仕様書に記載されていない事項は、国土交通省大臣官房官庁営繕部制定の「公共建築改修工事標準仕様書(建築工事編)(平成31年版)」(以下「改修標準仕様書」という。)による。 図面、本特記仕様書及び改修標準仕様書に記載されていない事項は、国土交通省大臣官房官庁営繕部制定の「公共建築工事標準仕様書(建築工事編)(最新版)」(以下「標準仕様書」という。)による。</p> <p>(2) 電気設備工事及び機械設備工事を本工事を含む場合は、電気設備工事及び機械設備工事はそれぞれの工事特記仕様書を適用する。なお、電気設備工事の工事特記仕様書は(/)図、機械設備工事の工事特記仕様書は(/)図による。</p> <p>(3) 本特記仕様書の表記 1) 項目は、○印の付いたものを適用する。 2) 特記事項は、●印の付いたものを適用する。 ○印の付かない場合は、※印の付いたものを適用する。 ○印と●印の付いた場合は、共に適用する。 3) 特記事項に記載の[. . .]内表示番号は、改修標準仕様書の当該項目、当該図又は当該表を示す。 4) 特記事項に記載の(. . .)内表示番号は、標準仕様書の当該項目、当該図又は当該表を示す。 5) ☒印は、「国等による環境物品等の調達の推進等に関する法律」(平成12年法律第100号)に基づく「環境物品等の調達の推進に関する基本方針(平成31年2月8日変更閣議決定)」における判断の基準(特定調達調達品目「公共工事」においては表1中の品目ごとの判断基準)を満たすものを示す。</p>

<p>項目</p> <p>1章 各章共通事項</p> <p>○ 適用基準</p> <p>1) 図面、本特記仕様書、標準仕様書及び改修標準仕様書に記載のない事項は次の基準による。 ・建築物解体工事共通仕様書(最新版) 国土交通省大臣官房官庁営繕部</p> <p>2) 本設計図書における「標準詳細図」とは、次の基準を指す。 建築工事標準詳細図(最新版) 国土交通省大臣官房官庁営繕部整備課</p> <p>○ 適用区分</p> <p>建築基準法に基づき定まる風圧力及び積雪荷重の算定には次の条件を用いる。 ・風圧力 風速(V≧34m/s) 地表面粗度区分(Ⅲ)</p> <p>・積雪荷重 平成12年5月31日建設省告示第1455号における区域別表(13)</p> <p>○ 環境への配慮 (1.4.1) [1.4.1]</p> <p>1) 建築物内部に使用する材料等は、設計図書に規定する所要の品質及び性能を有すると共に、次の①から④までを満たすものとする。 ① 合板、木質系フローリング、構造用パネル、集成材、単板積層材、MDF、パーティクルボード、その他の木質建材、ユリア樹脂板、壁紙、接着剤、保温材、緩衝材、断熱材、塗料、仕上塗材は、アセトアルデヒド及びブスチレンを発生しない又は発生が極めて少ない材料で、設計図書に規定する「ホルムアルデヒドの放散量」の区分に応じた材料を使用する。 ② 接着剤及び塗料はトルエン、キシレン及びエチルベンゼンの含有量が少ない材料を使用する。 ③ 接着剤は、可塑剤(フタル酸ジ-n-ブチル及びフタル酸ジ-2-エチルヘキシル等を含有しない難揮発性の可塑剤を除く)が添加されていない材料を使用する。 ④ ①の材料を使用して作られた家具、書架、実験台、その他の什器類は、ホルムアルデヒド、アセトアルデヒド及びブスチレンを発生しないか、発生が極めて少ない材料を使用したものとする。</p> <p>2) 設計図書に規定する「ホルムアルデヒドの放散量」の区分において、「規制対象外」とは次の①又は②に該当する材料を指し、同区分「第三種」とは次の③又は④に該当する材料を指す。 ① 建築基準法施行令第20条の7第1項に定める第一種、第二種及び第三種ホルムアルデヒド放散建築材料以外の材料 ② 建築基準法施行令第20条の7第4項の規定により国土交通大臣の認定を受けた材料 ③ 建築基準法施行令第20条の7第1項に定める第三種ホルムアルデヒド放散建築材料 ④ 建築基準法施行令第20条の7第3項の規定により国土交通大臣の認定を受けた材料</p> <p>○ 材料の品質等 (1.4.2) [1.4.2]</p> <p>1) 本工事に使用する材料は、設計図書に定める品質及び性能の他、通常有すべき品質及び性能を有するものとする。 2) 備考欄に商品名が記載された材料は、当該商品又は同等品を使用するものとし、同等品を使用する場合は監督職員の承諾を受ける。 3) 標準仕様書に記載されていない特別な材料の工法については、材料製造所の指定する工法とする。 4) 本工事に使用する材料のうち、5)に指定する材料の製造業者等は、次の①から⑥の事項を満たすものとし、その証明となる資料(外部機関が発行する証明書の写し等)を監督職員に提出して承諾を受ける。ただし、あらかじめ監督職員の承諾を受けた場合はこの限りではない。 ① 品質及び性能に関する試験データを整備していること。 ② 生産施設及び品質の管理を適切に行っていること。 ③ 安定的な供給が可能であること。 ④ 法令等で定める許可、認可、認定又は免許を取得していること。 ⑤ 製造又は施工の実績があり、その信頼性があること。 ⑥ 販売、保守等の営業体制を整えていること。 5) 製造業者等に関する資料の提出を求める材料 ・床型枠用鋼製デッキプレート ・鉄骨柱下無収縮材料 ・無収縮グラウト材 ・乾式保護材 ・既製調合材料(外工専用) ・既製調合目地材 ・レドレック ・吸水調整材 ・錠前類 ・クローザ類 ・自動扉機構 ・自閉式上吊り引戸機構(手動開き式) ・重量シャカ ・軽量シャカ ・ホビーシャカ ・防水剤 ・現場発泡断熱材(特定の70Nによるものを除く) ・70N707 ・可動間仕切 ・移動間仕切 ・1107-ス ・煙突用成形フィン材 ・天井点検口 ・床点検口 ・グレック ・屋上緑化用材料 ・バグリア ・ポチ樹脂 ・ポリマーシート材料 ・錆止め塗料</p>
--

<p>2章 仮設工事</p> <p>○ 騒音・粉じん等の対策 [2.1.3]</p> <p>・防音パネル ・防音シート 防音パネル等を取り付ける足場等の設置範囲</p> <p>○ 足場等 [2.2.1][表2.2.1]</p> <p>「手すり先行工法に関するガイドライン」に基づく足場の設置に当たっては、同ガイドラインの別紙1「手すり先行工法による足場の組立て等に関する基準」における2の(2)手すり据置方式又は(3)手すり先行専用足場方式により行う。</p> <p>外部足場 ○設置する (設置範囲 ○工事に必要な範囲) ・設置しない 防護シート○設置する (設置範囲 ○工事に必要な範囲) ・設置しない 内部足場 ○設置する (※脚立、足場板等) ・設置しない ・材料、撤去材等の運搬方法 種別(・A種 ・B種 ・C種 ○D種 ・E種) C種:利用可能なエレベーター() D種:利用可能な階段()</p> <p>○ 既存部分の養生 [2.3.1]</p> <p>1) 養生方法等 ○既存部分 養生方法(※ビニルシート、合板) ○既存家具、既存設備等 養生方法(※ビニルシート等) ・既存ブラインド、カーテン等 養生方法(※ビニルシート等) 保管場所(・図示・) ・固定された備品、机、ロッカー等の移動(・図示・) 2) 既存部分に汚染又は損傷を与えるおそれのある場合は養生を行う。また、万一損傷を与えた場合は、受注者の責任において速やかに修復等の処置を行う。</p> <p>○ 仮囲い</p> <p>・設ける ・設けない 仮囲いの位置及び延長は図示による。 ・方眼鋼板(H=) ・波型鋼板(H=) ○A型バリカー ・シートゲート(H=、W=) × 箇所 シートの色は、グレー、青、緑のいずれかとする。</p> <p>○ 監督職員事務所 <2.4.1></p> <p>※ 設けない(請負者事務所に打合せ会議室を確保する) ・設ける(規模 m²程度 請負者事務所と同様 ・可・不可) 備品()</p> <p>○ 工事用水</p> <p>構内既存の施設 ・利用できる(※有償・無償)※ 利用できない</p> <p>○ 工事用電力</p> <p>構内既存の施設 ・利用できる(※有償・無償)※ 利用できない</p> <p>○ 交通誘導員</p> <p>公園入口及び公園内に配置する。</p>
--

<p>3章 防水改修工事</p> <p>○ 施工数量調査 [1.5.2.3]</p> <p>調査範囲 ○図示 調査方法 ○図示 既存部分の破壊を行った場合の補修方法 ○図示 調査報告書 提出部数: ○部</p> <p>○ 降雨等に対する養生方法 [3.1.3]</p> <p>・ ※改修標準仕様書3.1.3(5)(7)~(9)による。</p> <p>○ 既存防水の処理 [3.2.3, 4.6]</p> <p>既存保護層の撤去 ○行う(範囲 ○図示・) ・行わない 既存防水層の撤去 ・行う(範囲 ・図示・) ○行わない 既存露出防水層表面の仕上げ塗塗の除去 ・行う(・M4AS ・M4ASI ・M4C ・M4DI ・L4X) ・行わない</p> <p>○ 既存下地の処理 [3.2.6]</p> <p>既存下地の補修箇所の形状、長さ、数量等 ○図示 P O S工法及びP O S I工法(機械的固定工法)の既存保護層を撤去し防水層を非撤去とした立上り部等の処理 ・ ※改修標準仕様書3.2.6(4)(g)①~③による 設備機器架台、配管受部、バラベットの、貫通パイプ回り、手すり・丸環の取付部、塔屋出入口部等の欠損部及び防水層末端部の納まり部の処理 ・図示 ※監督職員と協議する</p>	<p>4章 舗装</p> <p>○ アスファルト防水 [3.3.2-5]</p> <p>屋根保護防水 防水層の種類別</p> <table border="1"> <tr> <th>工法</th> <th>種別</th> <th>施工箇所</th> <th>断熱材</th> <th>G</th> <th>絶縁用シート</th> <th>立上り部の保護</th> </tr> <tr> <td>・P2A</td> <td>・A-1 ・A-2 ・A-3</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>※ポリエチレンフィルム ※11mm以上</td> <td>・乾式保護材 ・コンクリート挿え</td> </tr> <tr> <td>・P1B</td> <td>・B-1 ・B-2 ・B-3</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>・れんが挿え</td> </tr> <tr> <td>・P2A1</td> <td>・A1-1 ・A1-2 ・A1-3</td> <td>(種類) JIS A 921に準ずく(押出成形)</td> <td></td> <td></td> <td>※フラットヤーンクロス 1000g</td> <td>※JIS R 1250</td> </tr> <tr> <td>・P1B1</td> <td>・B1-1</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>・T1B1</td> <td>・B1-2 ・B1-3</td> <td>スチレンフォーム断熱材3種 b A (スキン層付き) (厚さ) ・5mm・50mm</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table> <p>改質アスファルトルーフィングシートの種類及び厚さ ・用途による区分 ・材料構成による区分 ・厚さ mm以上 ※改修標準仕様書表3.3.3から表3.3.9による 部分粘着層付改質アスファルトルーフィングシートの種類及び厚さ ・用途による区分 ・材料構成による区分 ・厚さ mm以上 ※改修標準仕様書表3.3.3から表3.3.9による 平場の保護コンクリートの厚さ こて仕上げ ※水下 80mm以上 床タイル張り ※水下 60mm以上 ・乾式保護材 窯業系パネル:無石綿の繊維質原料等を主原料として、板状に押出成形シオトクレープ養生したものの の 金属複合板 :金属板と樹脂を積層一体化させたものの (品質・性能)</p> <table border="1"> <tr> <th>分類・規格</th> <th>窯業系パネルⅠ類 (寒冷地仕様)</th> <th>窯業系パネルⅡ類 (一般地仕様)</th> <th>金属複合板</th> </tr> <tr> <td>寸法(mm)</td> <td>厚さ(mm) 幅(mm)</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>寸法の許容差</td> <td colspan="3">厚さ: +10%、-5%、幅: ±1%</td> </tr> <tr> <td>出荷時の含水率</td> <td colspan="3">出荷時において10%以下</td> </tr> <tr> <td>曲げ強さ・曲げ耐力</td> <td>標準時 550以上</td> <td>450以上</td> <td>300以上</td> </tr> <tr> <td>凍結融解 完了時 の曲げ強さ</td> <td>400以上</td> <td>320以上</td> <td>250以上</td> </tr> <tr> <td>吸水率(%)</td> <td>20以下</td> <td>20以下</td> <td>1以下</td> </tr> <tr> <td>吸水による長さ変化率(%)</td> <td>0.07以下</td> <td>0.07以下</td> <td>0.01以下</td> </tr> <tr> <td>難燃性</td> <td>不燃</td> <td>不燃</td> <td>表面材は不燃</td> </tr> <tr> <td>耐凍結融解性能</td> <td colspan="3">曲げ強さ、曲げモーメントの凍結融解完了時の試験サイクル後、著しい割れや剥離がなく、外観上異常がないこと</td> </tr> <tr> <td>耐衝撃性能</td> <td>質量500g(窯業系パネルⅠ類は1,000g)のおもりを高さ1.0mから試験体の弱点部に落としたとき、裏面に達する穴があかないこと</td> <td>質量500g(窯業系パネルⅠ類は1,000g)のおもりを高さ1.0mから試験体の弱点部に落としたとき、裏面に達する穴があかないこと、残変形量/100以下かつ加圧時の最大変形量4/100以下</td> <td></td> </tr> <tr> <td>剛性(E×I)</td> <td>(スパン40cm幅30cmの中央曲げ時に荷重200Nの時、たわみ4mm以下となる剛性)</td> <td></td> <td>80,000cm⁴以上</td> </tr> </table> <p>(試験方法) (1) 寸法の測定方法 (厚さ) 供試体の周辺から20mm以上内側の四隅を0.05mmまで測定できる測定器で測り、4点の平均値を求めてパネルの厚さとする。 (2) 曲げ強度試験は、JIS A 1408「建築用ボード類の曲げ及び衝撃試験方法」による。試験体は3号試験体とする。測定項目については、凍結融解試験前、同試験100、200、300サイクル完了後の合計4項目に亘って測定する。(窯業系パネルⅡ類は200サイクルまでとする。) (3) 吸水率試験は、JIS A 5430「繊維強化セメント板」に準じて行う。 (4) 難燃性試験は、JIS A 1321「建築物の内装材料及び工法の難燃性試験方法」に準じて行う。 (5) 吸水による長さ変化率試験は、試験体(幅40mm×長さ160mm×素材厚さ)を乾燥機に入れ、その温度を60±3℃に保ち24時間経過した後取り出してJIS K 8123「塩化カルシウム(試薬)」に規定する塩化カルシウム又はJIS K 1464「工業用乾燥剤」に規定する品質に</p>	工法	種別	施工箇所	断熱材	G	絶縁用シート	立上り部の保護	・P2A	・A-1 ・A-2 ・A-3				※ポリエチレンフィルム ※11mm以上	・乾式保護材 ・コンクリート挿え	・P1B	・B-1 ・B-2 ・B-3					・れんが挿え	・P2A1	・A1-1 ・A1-2 ・A1-3	(種類) JIS A 921に準ずく(押出成形)			※フラットヤーンクロス 1000g	※JIS R 1250	・P1B1	・B1-1						・T1B1	・B1-2 ・B1-3	スチレンフォーム断熱材3種 b A (スキン層付き) (厚さ) ・5mm・50mm					分類・規格	窯業系パネルⅠ類 (寒冷地仕様)	窯業系パネルⅡ類 (一般地仕様)	金属複合板	寸法(mm)	厚さ(mm) 幅(mm)			寸法の許容差	厚さ: +10%、-5%、幅: ±1%			出荷時の含水率	出荷時において10%以下			曲げ強さ・曲げ耐力	標準時 550以上	450以上	300以上	凍結融解 完了時 の曲げ強さ	400以上	320以上	250以上	吸水率(%)	20以下	20以下	1以下	吸水による長さ変化率(%)	0.07以下	0.07以下	0.01以下	難燃性	不燃	不燃	表面材は不燃	耐凍結融解性能	曲げ強さ、曲げモーメントの凍結融解完了時の試験サイクル後、著しい割れや剥離がなく、外観上異常がないこと			耐衝撃性能	質量500g(窯業系パネルⅠ類は1,000g)のおもりを高さ1.0mから試験体の弱点部に落としたとき、裏面に達する穴があかないこと	質量500g(窯業系パネルⅠ類は1,000g)のおもりを高さ1.0mから試験体の弱点部に落としたとき、裏面に達する穴があかないこと、残変形量/100以下かつ加圧時の最大変形量4/100以下		剛性(E×I)	(スパン40cm幅30cmの中央曲げ時に荷重200Nの時、たわみ4mm以下となる剛性)		80,000cm ⁴ 以上
工法	種別	施工箇所	断熱材	G	絶縁用シート	立上り部の保護																																																																																					
・P2A	・A-1 ・A-2 ・A-3				※ポリエチレンフィルム ※11mm以上	・乾式保護材 ・コンクリート挿え																																																																																					
・P1B	・B-1 ・B-2 ・B-3					・れんが挿え																																																																																					
・P2A1	・A1-1 ・A1-2 ・A1-3	(種類) JIS A 921に準ずく(押出成形)			※フラットヤーンクロス 1000g	※JIS R 1250																																																																																					
・P1B1	・B1-1																																																																																										
・T1B1	・B1-2 ・B1-3	スチレンフォーム断熱材3種 b A (スキン層付き) (厚さ) ・5mm・50mm																																																																																									
分類・規格	窯業系パネルⅠ類 (寒冷地仕様)	窯業系パネルⅡ類 (一般地仕様)	金属複合板																																																																																								
寸法(mm)	厚さ(mm) 幅(mm)																																																																																										
寸法の許容差	厚さ: +10%、-5%、幅: ±1%																																																																																										
出荷時の含水率	出荷時において10%以下																																																																																										
曲げ強さ・曲げ耐力	標準時 550以上	450以上	300以上																																																																																								
凍結融解 完了時 の曲げ強さ	400以上	320以上	250以上																																																																																								
吸水率(%)	20以下	20以下	1以下																																																																																								
吸水による長さ変化率(%)	0.07以下	0.07以下	0.01以下																																																																																								
難燃性	不燃	不燃	表面材は不燃																																																																																								
耐凍結融解性能	曲げ強さ、曲げモーメントの凍結融解完了時の試験サイクル後、著しい割れや剥離がなく、外観上異常がないこと																																																																																										
耐衝撃性能	質量500g(窯業系パネルⅠ類は1,000g)のおもりを高さ1.0mから試験体の弱点部に落としたとき、裏面に達する穴があかないこと	質量500g(窯業系パネルⅠ類は1,000g)のおもりを高さ1.0mから試験体の弱点部に落としたとき、裏面に達する穴があかないこと、残変形量/100以下かつ加圧時の最大変形量4/100以下																																																																																									
剛性(E×I)	(スパン40cm幅30cmの中央曲げ時に荷重200Nの時、たわみ4mm以下となる剛性)		80,000cm ⁴ 以上																																																																																								

<p>工事件名</p> <p>階上灯台改良改修工事</p>		<p>令和3年度</p>	
<p>箇所名</p> <p>階上灯台</p>	<p>図番</p> <p>A-01</p>		
<p>図面名称</p> <p>特記仕様書1</p>	<p>縮尺</p> <p>図示</p>	<p>原図</p> <p>A3版</p>	<p>年月</p> <p>R3.7</p>
<p>第二管区海上保安本部 交通部</p>		<p>設計</p> <p>門脇</p>	

適合するシリカゲルで調湿したデシケータに入れ、常温まで冷却する。次に、試験片の標線間隔が140mmになるように標線を刻む。

その後、1/150mm以上の精度をもつコンパレータを用いて標線間の長さを測定し、それを基準(L1)とする。次に試験片の長さ方向を水平にこぼ立てし、その上端が水平下約30mmとなるように保持して、常温の水中に浸せきする。

24時間経過した後、試験片を水中から取り出して湿布で表面に付着した水を拭き取り再び標線間の長さ(L2)を測る。

吸水による長さ変化率(L)は次式によって求める。

(L) = (L2 - L1) / L1 x 100
L: 吸水による長さ変化率(%)
L1: 乾燥時の標線間の長さ(mm)
L2: 吸水時の標線間の長さ(mm)

(6) 耐凍結融解性能試験は、JIS A 5422「窯業系サイディング」の気中凍結水中融解法によって行う。100、200、300各サイクル完了時の曲げ強度測定及び外観の状態を観察する。(窯業系パネル類は200サイクルまでとする。)-20±3の気中で約2時間の凍結、20±3の水中で約1時間の融解を行う約3時間を1サイクルとする。

(7) 耐衝撃性能試験は、JIS A 1408「建築用ボード類の曲げ及び衝撃試験方法」の衝撃性能試験に準じて行う。試験体の支持装置は、記号S、対辺単純支持方法による。試験体の大きさは、4号(長さ400mm、幅300mm)とする。おもりは記号(W、-1000又はW、-500)とする。金属複合板の残留変形量は、最大くぼみ深さを測定する。

屋根露出防水 防水層の種類

Table with columns: 工法, 種別, 施工箇所, 断熱材, 仕上塗料, 高日射反射率, 備考. Includes rows for M4C, M3D, P0D, P0D1, M3D1, M4D1.

屋根露出防水絶縁工法及び屋根露出防水絶縁断熱工法の脱気装置の種類及び設置数量

種類: アスファルトルーフィング類の製造所の指定
脱気装置: 1個
アスファルトルーフィング類の製造所の指定
屋根露出防水絶縁断熱工法の場合、ルーフトレンドリ及び立上り部周辺の断熱材の張りじまい位置

屋内防水

Table with columns: 工法, 種別, 施工箇所, 保護層. Includes rows for P1E, P2E.

E-1の行程3を行う部位
貯水槽、浴槽等常時水に接する部位
押え金物の材質、形状及び寸法
アルミニウム製 L-30 x 15 x 2.0 (mm)程度

屋上排水溝
適用する(施工範囲 図示)
適用しない

防水層の種類 [3.4.2、3]

Table with columns: 工法, 種別, 施工箇所, 断熱材, 仕上塗料, 高日射反射率, 備考. Includes row for M4AS.

Table with columns: 種別, 施工箇所, 断熱材, 仕上塗料, 高日射反射率, 備考. Includes rows for M3AS, P0AS, M3AS1, M4AS1, P0AS1.

改質アスファルトシートの種類及び厚さ
用途による区分
材料構成による区分
厚さ: mm以上
改修標準仕様書表3.4.1から表3.4.3による

粘着層付改質アスファルトシートの種類及び厚さ
用途による区分
材料構成による区分
厚さ: mm以上
改修標準仕様書表3.4.1から表3.4.3による

部分粘着層付改質アスファルトシートの種類及び厚さ
用途による区分
材料構成による区分
厚さ: mm以上
改修標準仕様書表3.4.1から表3.4.3による

屋根露出防水絶縁工法及び屋根露出防水絶縁断熱工法の脱気装置の種類及び設置数量

種類: 改質アスファルトルーフィング類の製造所の指定
脱気装置: 1個
改質アスファルトルーフィング類の製造所の指定

屋根露出防水絶縁断熱工法の防湿用シート
(設置する/設置しない)

押え金物の材質、形状及び寸法
アルミニウム製 L-30 x 15 x 2.0 (mm)程度

[3.5.2~4][表3.5.1~3]

防水層の種類

Table with columns: 工法, 種別, 施工箇所, 断熱材, 仕上塗料, 高日射反射率, 備考. Includes rows for S-F1, S-F2, P0S, S4S, S3S, M4S.

S-M2の場合で立上りが、接着工法の場合
立上り面のシート厚さ(1.5mm)

S-I-M1及びS-I-M2の場合の防湿用フィルム
(設置する/設置しない)

屋内防水 防水層の種類

Table with columns: 種別, 施工箇所, 保護層. Includes row for S-C1.

床塗りの場合の床の目地
目地割り(2m程度 最大目地間隔3m程度)
目地の種類(押し目地)

ルーフィングシートの種類及び厚さ
種類: 厚さ: mm
改修標準仕様書表3.5.1から表3.5.3による

絶縁用シートの材質
発泡ポリエチレンシート

固定金具の材質及び寸法形状
厚さ0.4mm以上の防錆処理した鋼板、ステンレス鋼板又はそれらの片面若しくは両面に樹脂を積層加工した鋼板

脱気装置の種類及び設置数量
種類: ルーフィングシート製造所の仕様による
設置数量: 1個
ルーフィングシート製造所の仕様による

接着工法の目地処理
プレキャストコンクリート下地()
プレキャストコンクリート部材の入隅部の増張り(種別S-F1、S-I-F1の場合)

行う(図示)
行わない
機械的固定工法の場合の一般部のルーフィングシートの張付け

建築基準法に基づき定まる風圧力の(0.1 0.15 0.13)倍の風圧力に対応した工法 [3.6.2、3]

Table with columns: 工法, 種別, 施工箇所, 仕上塗料, 高日射反射率, 備考. Includes rows for P0X, Q4X.

ウレタンゴム系塗膜防水X-1(絶縁工法)の脱気装置の種類及び設置数量
種類: 主材料の製造所の仕様による
設置数量: 1個
主材料の製造所の仕様による

Table with columns: 工法, 種別, 施工箇所, 各工程数及び各工程の使用量, 保護層. Includes rows for P1Y, P2Y.

シーリング材の目地寸法
(図示)
改修標準仕様書3.7.3(1a)(7)-(9)

シーリング材の接着性試験
簡易接着性試験
引張接着性試験 [3.8.2、3]

とい
配管用鋼管
硬質ポリ塩化ビニル
ルーフトレンドリ

ルーフトレンドリ材の種類その他

Table with columns: 種別, 材種, 張掛け幅. Includes rows for 屋根用, バルコニー用, バルコニー中継用.

塗膜防水

シーリング

とい

アルミニウム製笠木

とい受金物
材種: 溶融亜鉛めっきを行ったもの
形状: 市販品(とい径100以下) 25 x 4.5以上(とい径100を超えるもの)
取付け間隔: 適用する/適用しない

足金物
材種: 溶融亜鉛めっきを行ったもの
形状: 市販品
取付け間隔: 適用する/適用しない

多雪地域の軒どい取付間隔: 適用する/適用しない

ロックウール保温筒及びビーズ法ポリエチレンフォーム保温筒のホルムアルデヒド放散量
規制対象外

既存といその他の撤去及び降雨等に対する養生方法
図示

鋼管製といの防露巻き
改修標準仕様書表3.8.4による

たてどい受金物の取付け
ルーフトレンドリの取付け
図示

水はけよく、床面より下げ、周囲の隙間にモルタルを充填する [3.9.2、3]

種類: オープン形式(押出250形 押出300形 押出350形)
板材折曲げ形(オープン形式 シール形式)
本体幅(mm) 板厚(mm) 2.0mm

表面処理
種別: 着色(標準色/特注色)
既存笠木等の撤去: 行う(範囲 図示)
行わない

下地補修の工法
図示

板材折曲げ形の笠木の取付方法
図示

笠木の固定金具の工法等
建築基準法に基づき定まる風圧力の(0.1 0.15 0.13)倍の風圧力に対応した工法

施工数量調査

調査範囲: 〇外壁範囲 〇図示の範囲 [1.5.2、3]

調査内容
ひび割れの幅及び長さを壁面に表示する。また、ひび割れ部の挙動の有無、漏水の有無及び錆汁の流出の有無を調査する。

モルタル塗仕上げ及びタイル張り仕上げについては浮き部分を表面に表示し、また欠損部の形状寸法等を調査する。コンクリート表面のはがれ及びはく落部を壁面に表示する。塗り仕上げについては、コンクリートまたはモルタル表面のはがれ及びはく落部を壁面に表示する。また、既存塗膜と新規塗料との適合性を確認する。

既存部分の破壊を行った場合の補修方法
〇図示
調査報告書の部数
〇2部

[4.2.2]

ポリマーセメントモルタル

(品質・性能)

Table with columns: 項目, 品質・性能. Includes rows for だれ, 曲げ強さ, 圧縮強さ, 透水性, その他.

ポリマーセメントスラリー

[4.2.2]

Table with columns: 広がり速度, 長さ変化率, 引張接着性, 曲げ性能, 吸水性, 耐久性. Includes row for 3以上.

保水係数 0.35 ~ 0.55
粘調係数 0.50 ~ 1.00

Table with columns: 工事件名, 階上灯台改良改修工事, 令和3年度, 箇所名, 階上灯台, 図番, A-02, 図面名称, 特記仕様書2, 縮尺, 原図, 設計, 年月, 門脇, R3.7.

改質アスファルトシート 防水

Table with columns: 工事件名, 階上灯台改良改修工事, 令和3年度, 箇所名, 階上灯台, 図番, A-02, 図面名称, 特記仕様書2, 縮尺, 原図, 設計, 年月, 門脇, R3.7.

<p>既調査 モルタル</p> <p>[4.2.2] モルタル下地としたタイル工事に使用する張付け用モルタルとして、セメント、細骨材、混和剤等を予め工場において所定の割合に配合した材料とする。</p> <p>(品質・性能)</p> <table border="1"> <tr> <th>項目</th> <th>品質・性能</th> </tr> <tr> <td>保水率</td> <td>70.0%以上</td> </tr> <tr> <td>単位容積質量</td> <td>1.8kg/L以上</td> </tr> <tr> <td>接着強さ</td> <td>標準時 0.6N/mm²以上 温冷繰返し後 0.4N/mm²以上</td> </tr> <tr> <td>長さ変化率</td> <td>0.2%以下</td> </tr> <tr> <td>曲げ強さ</td> <td>4.0N/mm²以上</td> </tr> </table> <p>(試験方法) (1) 試料の調製 製造業者の定める、正味質量と標準練り上がり量より換算して、所定量の試料を練り上げるのに要する材料と練り混ぜ水を計算して用意する。 練り混ぜは、JIS R5201「セメントの物理試験方法」の10.2に規定する練り混ぜ機を使用し、練りばちに用意した水を入れ、攪拌しながら30秒間に材料を投入し、3分間練り混ぜて試料とする。 (2) 保水率の試験方法 JIS R3202「フロート板ガラス及び磨き板ガラス」に規定する磨き板ガラス(縦150mm、横150mm、厚さ5mm)の上にJIS P3801「ろ紙(化学分析用)」に規定する5Aろ紙(直径11cm)をのせ、その中央部に真ちゅう製リング型わく(内径50mm、高さ10mm、厚さ3mm)を設置し、(1)で調製した試料を金べらで平滑に詰込む。 その後、直ちにリング型わく上部にガラス板を当てて上下を逆さまにし、ろ紙部分が上部になるよう静置する。60分後ろ紙へにじみ出した水分の広がり最大と認められた方向とこれに直角な方向の長さをノギスを用いて、1mmの単位まで測定する。試験は3回実施し、その平均値を用いて次式により保水率を求める。 保水率=50/平均値×100 (注) 50:リング型わくの内径 mm (3) 単位容積質量の試験方法 JIS A 1711「ポリマーセメントモルタルの試験方法」に準ずる。 (4) 接着強さ(標準時)の試験方法 イ) 適用タイルが「モザイクタイルの場合」 (試験体の作製) JIS A5371「プレキャスト無筋コンクリート製品」に規定する普通平板N-300を下地板とし、表面をサンドペーパーを用いて軽く研磨した後、水湿しを行い直ちに(1)で調製した試料を厚さ5mmになるように塗付ける。直ちにJIS A 5209「セラミックタイル」に規定するタイルで押出し又はプレス成形による施ゆの「50角ユニットタイル(外のり寸法約300mm×300mm)」を圧着する。 その後、28日間、温度20±2、湿度80%以上の状態で湿空養生を行い、これを試験体とする。 (試験方法) JIS A6909「建築用仕上塗材」の7.10付着強さ試験に準じて行う。試験体をダイヤモンドカッターを用いて、タイル周辺に沿って下地板に達するまで切り込みを入れ、エポキシ樹脂接着剤で鋼製アタッチメントを接着し、引張試験機を用いて接着強さ試験を行う。なお、接着強さの測定箇所は、試験体の中からまんべんなく5箇所を選び抜き取る(全てが0.6N/mm²以上を確保していること) ロ) 適用タイルが「小口タイル・二丁掛けタイルの場合」 (試験体の作製) JIS A5371「プレキャスト無筋コンクリート製品」に規定する普通平板N-300を下地板とし、表面をサンドペーパーを用いて軽く研磨した後、水湿しを行い直ちに(1)で調製した試料を厚さ7mmになるように塗付ける。直ちにJIS A 5209「セラミックタイル」に規定するタイルで押出またはプレス成形による施ゆの「小口タイル108mm×60mm×12mm」を4枚2列、計8枚を圧着する。 その後、28日間、温度20±2、湿度80%以上の状態で湿空養生を行い、これを試験体とする。 (試験方法) 「モザイクタイル」の場合と同様に行う。 (5) 接着強さ(温冷繰返し後)の試験方法 (試験体の作製) 「モザイクタイル」及び「小口タイル・二丁掛けタイル」とも、各々(4)接着強さ(標準時)の試験方法の「試験体」と同様とする。 (温冷繰返し試験) 「モザイクタイル」及び「小口タイル・二丁掛けタイル」とも、各々JIS A 6909に規定する「建築用仕上塗材」の7.11温冷繰返し試験に準じて行う。試験の手順は、試験体を20±2の水中に1時間浸せきした後、直ちに-20±2の恒温器中で3時間冷却し、次いで50±3の別の恒温器中で3時間加熱し、この24時間を1サイクルとする操作を10回繰返した後、試験室に2時間静置し、ひび割れ及び膨れの有無を目視によって調べる。 (温冷繰返し後の接着強さ試験方法) 「モザイクタイル」及び「小口タイル・二丁掛けタイル」とも、各々温冷繰返し試験完了後の試験体を標準状態で2日間静置養生した後、標準時の接着強さの試験方法と同様に行う。(全てが0.4N/mm²以上を確保していること)</p>	項目	品質・性能	保水率	70.0%以上	単位容積質量	1.8kg/L以上	接着強さ	標準時 0.6N/mm ² 以上 温冷繰返し後 0.4N/mm ² 以上	長さ変化率	0.2%以下	曲げ強さ	4.0N/mm ² 以上	<p>4章 外壁改修工事(モルタル塗り仕上げ外壁改修)</p> <p>◎ ひび割れ部改修工法</p>	<p>(6) 長さ変化率の試験方法 JIS A 6203「セメント混和用ポリマーディスパージョン及び再乳化形粉末樹脂」9.9長さ変化率に準ずる。 (7) 曲げ強さの試験方法 JIS A 6916「建築下地調整塗材」7.11の曲げ強さ試験に準ずる。 試験室の状態：試験室は、温度20±2、湿度65±10%とする。</p> <p>◎樹脂注入工法 [4.1.4][4.2.2][4.3.4.5]</p> <table border="1"> <tr> <th>工法の種類</th> <th>ひび割れ幅(mm)</th> <th>注入口間隔(mm)</th> <th>注入量(mL/m)</th> </tr> <tr> <td>自動式低圧エポキシ樹脂注入工法</td> <td>0.2以上 ~ 1.0未満</td> <td>200~300</td> <td>◎130</td> </tr> <tr> <td>・ 手動式エポキシ樹脂注入工法</td> <td>0.2以上 ~ 0.3未満</td> <td>・ 50~100</td> <td>・ 40</td> </tr> <tr> <td>・ 機械式エポキシ樹脂注入工法</td> <td>0.3以上 ~ 0.5未満</td> <td>・ 100~200</td> <td>・ 70</td> </tr> <tr> <td></td> <td>0.5以上 ~ 1.0未満</td> <td>・ 150~250</td> <td>・ 130</td> </tr> </table> <p>エポキシ樹脂 ・ 低粘度形 ・ 中粘度形 注入状況の確認方法 ・ コアの抜き取りを行う</p> <p>抜き取り回数 ・ 長さ500mごと及びその端数につき1個 抜き取り部の補修方法 ・ 図示</p> <p>・ Uカットシール材充填工法 ・ シーリング材 充填材料の種類 ・ 1成分形又は2成分形ポリウレタン系</p>	工法の種類	ひび割れ幅(mm)	注入口間隔(mm)	注入量(mL/m)	自動式低圧エポキシ樹脂注入工法	0.2以上 ~ 1.0未満	200~300	◎130	・ 手動式エポキシ樹脂注入工法	0.2以上 ~ 0.3未満	・ 50~100	・ 40	・ 機械式エポキシ樹脂注入工法	0.3以上 ~ 0.5未満	・ 100~200	・ 70		0.5以上 ~ 1.0未満	・ 150~250	・ 130	<p>4章 外壁改修工事(タイル張り仕上げ外壁改修)</p> <p>・ ひび割れ部改修工法</p> <p>・ 欠損部改修工法 [4.1.4][4.2.2][4.3.7]</p> <p>・ 欠損部改修工法 [4.1.4][4.2.2][4.4.9]</p> <p>・ 浮き部改修工法 [4.1.4][4.2.2][4.4.10~15]</p> <table border="1"> <tr> <th rowspan="2">工法の種類</th> <th colspan="2">アンカーピンの注入口の箇所数</th> <th rowspan="2">注入量(mL/箇所)</th> </tr> <tr> <th>本数(本/m) 一般部/指定部</th> <th>(箇所/m) 一般部/指定部</th> </tr> <tr> <td>・ アンカーピンニング部分エポキシ樹脂注入工法</td> <td>16</td> <td>25</td> <td>25</td> </tr> <tr> <td>・ アンカーピンニング全面エポキシ樹脂注入工法</td> <td>13</td> <td>20</td> <td>25</td> </tr> <tr> <td>・ アンカーピンニング全面ポリマーセメントスラリー注入工法</td> <td>13</td> <td>20</td> <td>50</td> </tr> <tr> <td>・ 注入口付アンカーピンニング部分エポキシ樹脂注入工法</td> <td>9</td> <td>16</td> <td>25</td> </tr> <tr> <td>・ 注入口付アンカーピンニング全面エポキシ樹脂注入工法</td> <td>9</td> <td>16</td> <td>25</td> </tr> <tr> <td>・ 注入口付アンカーピンニング全面ポリマーセメントスラリー注入工法</td> <td>9</td> <td>16</td> <td>50</td> </tr> <tr> <td>・ 充填工法</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>・ モルタル塗替え工法</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> </tr> </table> <p>アンカーピンの材質 ステンレス鋼(SUS304)呼び径 4mm の丸棒で全ネジ切り加工をしたもの。 注入口付アンカーピンの材質 ステンレス鋼(SUS304)呼び径外径 6mm程度</p> <p>充填工法 ・ エポキシ樹脂モルタル ・ ポリマーセメントモルタル モルタル塗替え工法 ・ 現場調査材料 (セメントは改修特記仕様書8-2コンクリート工事による) 既製目地材 ・ 使用する(形状・図示) 仕上厚又は全塗厚が25mmを超える場合の処置 図示</p>	工法の種類	アンカーピンの注入口の箇所数		注入量(mL/箇所)	本数(本/m) 一般部/指定部	(箇所/m) 一般部/指定部	・ アンカーピンニング部分エポキシ樹脂注入工法	16	25	25	・ アンカーピンニング全面エポキシ樹脂注入工法	13	20	25	・ アンカーピンニング全面ポリマーセメントスラリー注入工法	13	20	50	・ 注入口付アンカーピンニング部分エポキシ樹脂注入工法	9	16	25	・ 注入口付アンカーピンニング全面エポキシ樹脂注入工法	9	16	25	・ 注入口付アンカーピンニング全面ポリマーセメントスラリー注入工法	9	16	50	・ 充填工法	-	-	-	・ モルタル塗替え工法	-	-	-	<p>・ ひび割れ部改修工法 [4.1.4][4.2.2][4.5.5、6]</p> <p>・ 欠損部改修工法 [4.1.4][4.2.2][4.5.8]</p> <p>・ 浮き部改修工法 [4.1.4][4.2.2][4.5.9~15]</p> <p>・ 樹脂注入工法</p> <table border="1"> <tr> <th>工法の種類</th> <th>ひび割れ幅(mm)</th> <th>注入口間隔(mm)</th> <th>注入量(mL/m)</th> </tr> <tr> <td>自動式低圧エポキシ樹脂注入工法</td> <td>0.2以上 ~ 1.0未満</td> <td>200~300</td> <td>・ 130</td> </tr> <tr> <td>・ 手動式エポキシ樹脂注入工法</td> <td>0.2以上 ~ 0.3未満</td> <td>・ 50~100</td> <td>・ 40</td> </tr> <tr> <td>・ 機械式エポキシ樹脂注入工法</td> <td>0.3以上 ~ 0.5未満</td> <td>・ 100~200</td> <td>・ 70</td> </tr> <tr> <td></td> <td>0.5以上 ~ 1.0未満</td> <td>・ 150~250</td> <td>・ 130</td> </tr> </table> <p>エポキシ樹脂・低粘度形(0.5mm未満)中粘度形(0.5mm以上) 注入状況の確認方法 ・ コアの抜き取りを行う</p> <p>抜き取り回数 ・ 長さ500mごと及びその端数につき1個 抜き取り部の補修方法 ・ 図示</p> <p>・ Uカットシール材充填工法 ・ シーリング材 充填材料の種類 ・ 1成分形又は2成分形ポリウレタン系 シーリング材のうえにポリマーセメントモルタルの充填 ・ 行う ・ 行わない ・ 可とう性エポキシ樹脂</p> <p>・ タイル部分張替え工法 接着剤の種類 ・ ポリマーセメントモルタル ・ JIS A 5557に基づく一液反応硬化形成シリコン樹脂系 ・ タイル張替え工法 張替え用材料 ・ 接着剤 JIS A 5557に基づく一液反応硬化形成シリコン樹脂系 ・ 張付けモルタル(現場調査材料・既製調査モルタル) 伸縮調整目地及びひび割れ誘発目地の位置 ・ 図示 改修標準仕様書表4.5.1による 外装タイル張り下地等の下地モルタル及び下地調整材塗りの接着力試験 ・ 行う ・ 行わない ・ セメントモルタルによるタイル(セラミックタイル)張り 下地モルタル塗りを行うコンクリート素地面の処理 ・ 目荒らし工法(改修標準仕様書4.4.9(3)による)</p> <p>・ タイル張りの工法 ・ 外装タイル (・ 密着張り ・ 改良圧着張り ・ 改良積上げ張り) ・ ユニットタイル (・ マスク張り ・ モザイクタイル張り) シーリング 改修特記仕様書第3章 防水改修工事による</p> <p>・ 有機系接着剤によるタイル(セラミックタイル)張りモルタル塗りを行うコンクリート素地面の処理 ・ 目荒らし工法(改修標準仕様書4.4.9(3)による)</p> <p>・ シーリング材の種類 打継ぎ目地、ひび割れ誘発目地 ・ ポリウレタン系 伸縮調整目地その他の目地 ・ 変成シリコン系 シーリングのその他事項は、改修特記仕様書第3章 防水改修工事による</p> <p>工事件名 階上灯台改良改修工事 令和3年度</p> <p>箇所名 階上灯台 図番 A-03</p> <p>図面名称 特記仕様書3 縮尺 図示 原図 A3版</p> <p>第二管区海上保安本部 交通部 設計 年月 門脇 R3.7</p>	工法の種類	ひび割れ幅(mm)	注入口間隔(mm)	注入量(mL/m)	自動式低圧エポキシ樹脂注入工法	0.2以上 ~ 1.0未満	200~300	・ 130	・ 手動式エポキシ樹脂注入工法	0.2以上 ~ 0.3未満	・ 50~100	・ 40	・ 機械式エポキシ樹脂注入工法	0.3以上 ~ 0.5未満	・ 100~200	・ 70		0.5以上 ~ 1.0未満	・ 150~250	・ 130
項目	品質・性能																																																																																													
保水率	70.0%以上																																																																																													
単位容積質量	1.8kg/L以上																																																																																													
接着強さ	標準時 0.6N/mm ² 以上 温冷繰返し後 0.4N/mm ² 以上																																																																																													
長さ変化率	0.2%以下																																																																																													
曲げ強さ	4.0N/mm ² 以上																																																																																													
工法の種類	ひび割れ幅(mm)	注入口間隔(mm)	注入量(mL/m)																																																																																											
自動式低圧エポキシ樹脂注入工法	0.2以上 ~ 1.0未満	200~300	◎130																																																																																											
・ 手動式エポキシ樹脂注入工法	0.2以上 ~ 0.3未満	・ 50~100	・ 40																																																																																											
・ 機械式エポキシ樹脂注入工法	0.3以上 ~ 0.5未満	・ 100~200	・ 70																																																																																											
	0.5以上 ~ 1.0未満	・ 150~250	・ 130																																																																																											
工法の種類	アンカーピンの注入口の箇所数		注入量(mL/箇所)																																																																																											
	本数(本/m) 一般部/指定部	(箇所/m) 一般部/指定部																																																																																												
・ アンカーピンニング部分エポキシ樹脂注入工法	16	25	25																																																																																											
・ アンカーピンニング全面エポキシ樹脂注入工法	13	20	25																																																																																											
・ アンカーピンニング全面ポリマーセメントスラリー注入工法	13	20	50																																																																																											
・ 注入口付アンカーピンニング部分エポキシ樹脂注入工法	9	16	25																																																																																											
・ 注入口付アンカーピンニング全面エポキシ樹脂注入工法	9	16	25																																																																																											
・ 注入口付アンカーピンニング全面ポリマーセメントスラリー注入工法	9	16	50																																																																																											
・ 充填工法	-	-	-																																																																																											
・ モルタル塗替え工法	-	-	-																																																																																											
工法の種類	ひび割れ幅(mm)	注入口間隔(mm)	注入量(mL/m)																																																																																											
自動式低圧エポキシ樹脂注入工法	0.2以上 ~ 1.0未満	200~300	・ 130																																																																																											
・ 手動式エポキシ樹脂注入工法	0.2以上 ~ 0.3未満	・ 50~100	・ 40																																																																																											
・ 機械式エポキシ樹脂注入工法	0.3以上 ~ 0.5未満	・ 100~200	・ 70																																																																																											
	0.5以上 ~ 1.0未満	・ 150~250	・ 130																																																																																											

<p>・注入口付アンカー ピンニング全面ポリマー セメントスラリー注入工法</p> <p>・注入口付アンカー ピンニングエポキシ樹脂 注入タイル固定工法</p> <p>・タイル部分張替え工法</p> <p>・タイル張替え工法</p> <p>アンカーピンの材質</p> <p>ステンレス鋼 (SUS304) 呼び径 4mm の丸棒で全ネジ切り加工したもの。</p> <p>注入口付アンカーピンの材質</p> <p>ステンレス鋼 (SUS304) 呼び径外径 6mm程度</p> <p>・タイル部分張替え工法 接着剤の種類 ・ポリマーセメントモルタル ・JIS A 5557に基づく一液反応硬化形成シリコーン樹脂系</p> <p>・タイル張替え工法 張替え用材料 ・接着剤 JIS A 5557に基づく一液反応硬化形成シリコーン樹脂系 ・張付けモルタル (・現場調合材料 ・既製調合モルタル)</p> <p>伸縮調整目地及びひび割れ誘発目地の位置</p> <p>・図示 改修標準仕様書4.5.1による タイル張り下地等の下地モルタル及び下地調整材塗りの接着剤試験 ・行う ・行わない ・セメントモルタルによるタイル (セラミックタイル) 張り 下地モルタル塗りをを行うコンクリート素地面の処理</p> <p>タイル張りの工法 ・外装タイル (・密着張り 改良圧着張り ・改良積上げ張り) ・ユニットタイル (・マスク張り ・モザイクタイル張り) シーリング 改修特記仕様書3章 防水工事による ・有機系接着剤によるタイル (セラミックタイル) 張りモルタル塗りをを行うコンクリート素地面の処理</p> <p>シーリング材の種類 打継ぎ目地、ひび割れ誘発目地 ポリウレタン系 伸縮調整目地その他の目地 変成シリコーン系</p> <p>シーリングのその他事項は、改修特記仕様書3章 防水工事による</p> <p>・目地改修工法 [4.1.4][4.5.16]</p> <p>・目地ひび割れ部改修工法 ・伸縮調整目地改修工法 伸縮調整目地の位置及び寸法 ・図示 シーリングは、改修特記仕様書第3章 防水改修工事による</p> <p>・タイルの形状、寸法等 [4.2.2]</p> <table border="1" data-bbox="276 1323 756 1470"> <thead> <tr> <th rowspan="2">施工箇所</th> <th rowspan="2">形状寸法 (mm)</th> <th colspan="2">再生材料の適用</th> <th colspan="2">吸水率による区分</th> <th colspan="2">役割</th> <th rowspan="2">色</th> <th rowspan="2">耐凍害性</th> <th rowspan="2">耐凍り性</th> <th rowspan="2">備考</th> </tr> <tr> <th>有</th> <th>無</th> <th>有</th> <th>無</th> <th>有</th> <th>無</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td></td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td></td> <td>○</td> <td>○</td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td></td> <td>○</td> <td>○</td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td></td> <td>○</td> <td>○</td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td></td> <td>○</td> <td>○</td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>標準的な曲がりの役割は一体成形とする 試験張り ・行う ・行わない 見本焼き ・行う ・行わない</p> <p>4章 外壁改修工事 (塗り仕上げ外壁等改修) (灯台内部も準ずる)</p>	施工箇所	形状寸法 (mm)	再生材料の適用		吸水率による区分		役割		色	耐凍害性	耐凍り性	備考	有	無	有	無	有	無			○	○	○	○	○	○		○	○				○	○	○	○	○	○		○	○				○	○	○	○	○	○		○	○				○	○	○	○	○	○		○	○		<p>○ 仕上塗材 仕上げ</p> <p>[4.1.5][4.2.2][4.6.5][表4.2.4]</p> <p>建物内部に使用する塗料のホルムアルデヒド放散量 規制対象外</p> <p>新規仕上塗材の種類</p> <table border="1" data-bbox="276 147 795 420"> <thead> <tr> <th>種類</th> <th>呼び名</th> <th>防火材料</th> <th>仕上げの形状及び工法等</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="5">・薄付け仕上塗材</td> <td>・外装薄塗材S1</td> <td>○</td> <td>・砂壁状</td> </tr> <tr> <td>・可とう形外装薄塗材S1</td> <td>○</td> <td>・ゆず肌状 (・吹付け ・ローラー塗り)</td> </tr> <tr> <td>・外装薄塗材E</td> <td>○</td> <td>・さざ波状</td> </tr> <tr> <td>・可とう形外装薄塗材E</td> <td>○</td> <td>・平たん状</td> </tr> <tr> <td>・防水形外装薄塗材E</td> <td>○</td> <td>・凹凸状 (・吹付け ・こて塗り)</td> </tr> <tr> <td rowspan="5">・厚付け仕上塗材</td> <td>・外装厚塗材C</td> <td>○</td> <td>・着色骨材砂壁状 (・吹付け ・こて塗り)</td> </tr> <tr> <td>・外装厚塗材S1</td> <td>○</td> <td>・砂壁状じゅうらく</td> </tr> <tr> <td>・外装厚塗材E</td> <td>○</td> <td>・京壁状じゅうらく</td> </tr> <tr> <td>○ 複層仕上塗材</td> <td>○</td> <td>・吸湿性 ・適用する ・適用しない</td> </tr> <tr> <td>・厚付け仕上塗材C</td> <td>○</td> <td>・吹出し ・凸部処理 ・平たん状</td> </tr> </tbody> </table> <p>○ 複層仕上塗材</p> <table border="1" data-bbox="276 420 795 630"> <thead> <tr> <th>種類</th> <th>呼び名</th> <th>防火材料</th> <th>仕上げの形状及び工法等</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="5">○ 複層仕上塗材</td> <td>・複層塗材CE</td> <td>○</td> <td>・ゆず肌状 ・凸部処理 ・凹凸状</td> </tr> <tr> <td>・可とう形複層塗材CE</td> <td>○</td> <td>・耐候性 耐候形3種</td> </tr> <tr> <td>・複層塗材S1</td> <td>○</td> <td>・上塗材</td> </tr> <tr> <td>○ 複層塗材E</td> <td>○</td> <td>・溶媒 水系 ・溶剤系 ・弱溶剤系</td> </tr> <tr> <td>・複層塗材RE</td> <td>○</td> <td>・樹脂 ・アクリル系</td> </tr> <tr> <td rowspan="5">・可とう形改修用 仕上塗材</td> <td>・可とう形改修塗材CE</td> <td>○</td> <td>・耐候性 耐候形3種</td> </tr> <tr> <td>・可とう形改修塗材RE</td> <td>○</td> <td>・上塗材</td> </tr> <tr> <td>・可とう形改修塗材CE</td> <td>○</td> <td>・溶媒 水系 ・溶剤系 ・弱溶剤系</td> </tr> <tr> <td>・可とう形改修塗材RE</td> <td>○</td> <td>・樹脂 ・アクリル系</td> </tr> <tr> <td>・可とう形改修塗材CE</td> <td>○</td> <td>・外観 つやあり ・つやなし ・メタリック</td> </tr> </tbody> </table> <p>種別 ・ A種 ・ B種 [4.1.5][4.7.2][表4.7.1]</p> <p>外壁用塗膜防水塗料 [4.1.5][4.2.2][4.8.2][表4.2.6]</p> <p>外壁用塗膜防水塗料 仕上げの形状 ・ 工法 ・ 外壁用仕上塗材の耐候性 ・ JIS A 6909の耐候性1種相当 下地挙動緩衝材の適用 ・適用する ・適用しない 吹付け工法の模様材の種類 ・ 所要量 (kg/m²) 外壁用仕上塗材の種類 ・ 所要量 (kg/m²) コンクリート面のひび割れ部及び欠損部の処理は、改修特記仕様書4章 外壁改修工事 (コンクリート打ち放し仕上げ外壁改修) による</p> <p>モルタル面のひび割れ部、欠損部及び浮き部の処理は、改修特記仕様書4章 外壁改修工事 (モルタル塗り仕上げ外壁改修) による</p> <p>既存塗膜等の除去、下地処理及び下地調整は、改修特記仕様書4章 外壁改修工事 (塗り仕上げ外壁等改修) による</p> <p>5章 建具改修工事</p> <p>・改修工法 [5.1.3]</p> <table border="1" data-bbox="276 1323 795 1470"> <thead> <tr> <th>建具の種類</th> <th>かぶせ工法</th> <th>撤去工法</th> <th>適用箇所</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>・アルミニウム製建具</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>・建具表による</td> </tr> <tr> <td>・樹脂製建具</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>・建具表による</td> </tr> <tr> <td>・鋼製建具</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>・建具表による</td> </tr> <tr> <td>・鋼製建具</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>・建具表による</td> </tr> <tr> <td>・鋼製建具</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>・建具表による</td> </tr> <tr> <td>・ステンレス製建具</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>・建具表による</td> </tr> </tbody> </table> <p>新規に建具を設ける場合 壁部分の開口の開け方 ・ 図示 新規建具周囲の補修工法及び範囲 ・ 図示 建具周囲のシーリングは、改修特記仕様書3章 防水改修工事による</p> <p>・防火戸 [5.1.4]</p> <p>・指定する 適用箇所 (・建具表による)) ・指定しない ヒューズ装置、熱感知器又は煙感知器との連動 連動させる (・建具表による)) ・連動させない</p> <p>・見本の製作等 [5.1.5]</p> <p>建具見本の製作 ・行う (建具符号:)) ・行わない 建具見本の程度 ・工事に使用するものとして、あらかじめ製作する ・納まり等が分かる程度のもの)) ・行う (建具符号:)) ・行わない</p> <p>・防犯建物部品 [5.1.7]</p> <p>・適用する 適用箇所 (・建具表による)) ・適用しない</p>	種類	呼び名	防火材料	仕上げの形状及び工法等	・薄付け仕上塗材	・外装薄塗材S1	○	・砂壁状	・可とう形外装薄塗材S1	○	・ゆず肌状 (・吹付け ・ローラー塗り)	・外装薄塗材E	○	・さざ波状	・可とう形外装薄塗材E	○	・平たん状	・防水形外装薄塗材E	○	・凹凸状 (・吹付け ・こて塗り)	・厚付け仕上塗材	・外装厚塗材C	○	・着色骨材砂壁状 (・吹付け ・こて塗り)	・外装厚塗材S1	○	・砂壁状じゅうらく	・外装厚塗材E	○	・京壁状じゅうらく	○ 複層仕上塗材	○	・吸湿性 ・適用する ・適用しない	・厚付け仕上塗材C	○	・吹出し ・凸部処理 ・平たん状	種類	呼び名	防火材料	仕上げの形状及び工法等	○ 複層仕上塗材	・複層塗材CE	○	・ゆず肌状 ・凸部処理 ・凹凸状	・可とう形複層塗材CE	○	・耐候性 耐候形3種	・複層塗材S1	○	・上塗材	○ 複層塗材E	○	・溶媒 水系 ・溶剤系 ・弱溶剤系	・複層塗材RE	○	・樹脂 ・アクリル系	・可とう形改修用 仕上塗材	・可とう形改修塗材CE	○	・耐候性 耐候形3種	・可とう形改修塗材RE	○	・上塗材	・可とう形改修塗材CE	○	・溶媒 水系 ・溶剤系 ・弱溶剤系	・可とう形改修塗材RE	○	・樹脂 ・アクリル系	・可とう形改修塗材CE	○	・外観 つやあり ・つやなし ・メタリック	建具の種類	かぶせ工法	撤去工法	適用箇所	・アルミニウム製建具	○	○	・建具表による	・樹脂製建具	○	○	・建具表による	・鋼製建具	○	○	・建具表による	・鋼製建具	○	○	・建具表による	・鋼製建具	○	○	・建具表による	・ステンレス製建具	○	○	・建具表による	<p>・アルミニウム製建具 [5.2.2-5][表5.2.2]</p> <p>性能値等</p> <p>耐風圧性の等級 ()) 気密性の等級 ()) 水密性の等級 ()) 外部に面する建具の種類 ・A種 (建具符号: ・建具表による))) ・B種 (建具符号: ・建具表による))) ・C種 (建具符号: ・建具表による))) 枠見込みの寸法 ・建具表による</p> <p>防音ドア・防音サッシ 遮音性の等級 ()) 断熱ドア・断熱サッシ 断熱性の等級 ()) 耐震ドア 面内変形追従性の等級 ())</p> <p>表面処理 外部に面する建具 ・BB-1 ・BB-2 着色 ・標準色 ()) ・特注色 ()) 屋内の建具 ・BC-1 ・BC-2 着色 ・標準色 ()) ・特注色 ()) ステンレス鋼板 ・ SUS304, SUS430J1L, 又はSUS443J1</p> <p>結露水の処理方法 ・図示 水切り板、ぜん板 ・図示</p> <p>・網戸等 [5.2.3, 5.3.3]</p> <table border="1" data-bbox="795 588 1484 693"> <thead> <tr> <th>種類</th> <th>材種</th> <th>線径</th> <th>網目</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>防虫網</td> <td>・ガラス繊維入り合成樹脂製 ・ステンレス (SUS316) 製 合成樹脂製</td> <td>0.25mm 以上</td> <td>・16-18 メッシュ</td> </tr> <tr> <td>防電網</td> <td>ステンレス (SUS304) 線材</td> <td>1.5mm</td> <td>網目寸法 15mm</td> </tr> </tbody> </table> <p>・樹脂製建具 [5.2.2][5.3.2-5]</p> <p>性能値等</p> <p>耐風圧性の等級 ()) 気密性の等級 ()) 水密性の等級 ()) 外部に面する建具の種類 ・A種 (建具符号: ・建具表による))) ・B種 (建具符号: ・建具表による))) ・C種 (建具符号: ・建具表による))) 枠見込みの寸法 ・建具表による</p> <p>防音ドア・防音サッシ 遮音性の等級 (・T-1 ・T-2)) 断熱ドア・断熱サッシ 断熱性の等級 (・H-4 ・H-5 ・H-6)))</p> <p>表面色 ・標準色 ・特注色 水切り板、ぜん板 図示 ガラス 複層ガラス</p> <p>性能等級 簡易気密型ドアセット ・適用する (建具符号: ・建具表による)) ・適用しない</p> <p>外部に面する建具の耐風圧性 ・S-4 (建具符号: ・建具表による))) ・S-5 (建具符号: ・建具表による))) ・S-6 (建具符号: ・建具表による)))</p> <p>防音ドア・防音サッシ 遮音性の等級 ()) 断熱ドア・断熱サッシ 断熱性の等級 ()) 耐震ドア 面内変形追従性の等級 ())</p> <p>鋼板の厚さ ・ mm 改修標準仕様書5.4.2による ステンレス鋼板 ・ SUS304, SUS430J1L, 又はSUS443J1</p> <p>性能等級 [5.2.2][5.4.2-4][表5.4.2]</p> <p>簡易気密型ドアセット ・適用する ・適用しない 防音ドア・防音サッシ 遮音性の等級 ()) 断熱ドア・断熱サッシ 断熱性の等級 ()) 耐震ドア 面内変形追従性の等級 ())</p> <p>鋼板の種類 ・亜鉛めっき鋼板 ・ビニル被覆鋼板 ・カラー鋼板 ・ステンレス鋼板 鋼板の厚さ ・ mm 改修標準仕様書5.5.1による ステンレス鋼板 ・ SUS304, SUS430J1L, 又はSUS443J1 召合せ、縦小口包み板の材質 ・ステンレス鋼板 ・アルミニウム合金の押出成形材 鋼板</p> <p>性能等級 [5.2.2][5.4.2][5.6.2-5]</p> <p>簡易気密型ドアセット ・適用する ・適用しない 外部に面する建具の耐風圧性 ・S-4 ・S-5 ・S-6)) 防音ドア・防音サッシ 遮音性の等級 ()) 断熱ドア・断熱サッシ 断熱性の等級 ()) 耐震ドア 面内変形追従性の等級 ())</p> <p>・ステンレス製建具</p>	種類	材種	線径	網目	防虫網	・ガラス繊維入り合成樹脂製 ・ステンレス (SUS316) 製 合成樹脂製	0.25mm 以上	・16-18 メッシュ	防電網	ステンレス (SUS304) 線材	1.5mm	網目寸法 15mm	<p>建具用金物 [5.7.1-3]</p> <p>ステンレス鋼板 ・ SUS304, SUS430J1L, 又はSUS443J1 表面仕上げ ・鏡面仕上げ ・HL ステンレス鋼板の曲げ加工 ・角出し曲げ 普通曲げ</p> <p>金物の種類及び見え掛り部の材質等 改修標準仕様書5.7.1により適用は建具表による。 金属製建具用丁番の枚数及び大きさ ・建具表による 改修標準仕様書5.7.2による 樹脂製建具用丁番の枚数及び大きさ ・建具表による 改修標準仕様書5.7.3による 握り玉、レバーハンドル、押板類、クレセントの取付位置 ・建具表による</p> <p>・錠前類 【シリンダ箱錠及びシリンダ本締まり錠】 (品質) デッドボルトの出寸法は17mm以上とする。 鍵付きのものはマスターキー、グラントマスターキー、コンストラクションキーなどのキーシステムが構築できるものとする。 (性能)</p> <p>1) (シリンダ箱錠のみ) ラッチボルトの開閉繰り返し試験 (40万回) を行った後、ハンドルでの開閉操作力及びラッチング力が試験前の2倍未満であり、動作に支障がない。 2) キーによるデッドボルトの施錠繰り返し試験 (10万回) を行った後、試験前の回転トルクの2倍未満であり、施錠操作に支障がない。(シリンダ本締まり錠のみ) シリンダ単体の施錠繰り返し試験の評価は、シリンダだけの回転トルクが10N・cm以下とする。 3) キーによる施錠機構の施錠繰り返し試験 (10万回) を行った後、試験前の回転トルクの2倍未満であり、施錠操作に支障がない。 4) キーの抜き差し繰り返し試験 (10万回) を行った後、キーの抜き差しに要する荷重は10N以下である。また、未使用の合鍵でシリンダが回転でき、かつ、1箇所1段差浅い刻みをもつ異なるキーではシリンダが回転しないこと。(キーに加えるトルクは、150N・cmとする) 5) (シリンダ本締まり錠はグレード3以上の彫込錠の場合) ストライクブレードの厚さ1.5mm以上のステンレス鋼製とし、トロコケは厚さ1.6mm以上の鋼製の一体絞りとする。又はストライクの強度と同等以上の強度をもつものとする。</p> <p>1) ラッチボルトの側圧強度試験 (4KN) を行い、荷重を除いたとき、ハンドル操作及びラッチングに支障がない。 2) レバーハンドルのねじり強度試験 (3.5KN・cm) を行った後、トルクを除いたときハンドルが正常に作動していること。また、施錠時ハンドルが固定される錠は、施錠状態が維持され、かつ、施錠操作に支障がない。 3) 握り玉のねじり強度試験 (3KN・cm) を行った後、トルクを除いたとき、握り玉が正常に作動していること。また、施錠時握り玉が固定される錠は、施錠状態が維持され、かつ、施錠操作に支障がない。 4) ハンドルの引張強度試験 (2KN) を行い、荷重を除いたとき、ハンドルが正常に作動していること。また、施錠時ハンドルが固定される錠は、施錠状態が維持され、かつ、施錠操作に支障がない。 5) ハンドルの垂直荷重強度試験 (2KN) を行い、荷重を除いたとき、ハンドルが正常に作動していること。また、施錠時ハンドルが固定される錠は、施錠状態が維持され、かつ、施錠操作に支障がない。</p> <p>1) かぎ (鍵) 数は、1.5万以上とする。ただし、異なるキーウェイ形状であっても、共通のキーセクションが存在する場合は、有効かぎ (鍵) 違い数とみなさないものとする。 2) 同一タンブラーの使用数は、60%以下とする。また、6本タンブラーにおいては、キーの同一刻みは、最大2連続までとしていること。</p> <p>試験方法は、JIS A 1541-1 (建築金物一錠一第1部: 試験方法) による。</p>	<p>工事件名 階上灯台改良改修工事 令和3年度</p> <p>箇所名 階上灯台 図番 A-04</p> <p>図面名称 特記仕様書4 縮尺 図示 原図 A3版</p> <p>設計 年月 門脇 R3.7</p> <p>第二管区海上保安本部 交通部</p>
施工箇所			形状寸法 (mm)	再生材料の適用		吸水率による区分		役割					色	耐凍害性	耐凍り性	備考																																																																																																																																																																						
	有	無		有	無	有	無																																																																																																																																																																															
		○	○	○	○	○	○		○	○																																																																																																																																																																												
		○	○	○	○	○	○		○	○																																																																																																																																																																												
		○	○	○	○	○	○		○	○																																																																																																																																																																												
		○	○	○	○	○	○		○	○																																																																																																																																																																												
種類	呼び名	防火材料	仕上げの形状及び工法等																																																																																																																																																																																			
・薄付け仕上塗材	・外装薄塗材S1	○	・砂壁状																																																																																																																																																																																			
	・可とう形外装薄塗材S1	○	・ゆず肌状 (・吹付け ・ローラー塗り)																																																																																																																																																																																			
	・外装薄塗材E	○	・さざ波状																																																																																																																																																																																			
	・可とう形外装薄塗材E	○	・平たん状																																																																																																																																																																																			
	・防水形外装薄塗材E	○	・凹凸状 (・吹付け ・こて塗り)																																																																																																																																																																																			
・厚付け仕上塗材	・外装厚塗材C	○	・着色骨材砂壁状 (・吹付け ・こて塗り)																																																																																																																																																																																			
	・外装厚塗材S1	○	・砂壁状じゅうらく																																																																																																																																																																																			
	・外装厚塗材E	○	・京壁状じゅうらく																																																																																																																																																																																			
	○ 複層仕上塗材	○	・吸湿性 ・適用する ・適用しない																																																																																																																																																																																			
	・厚付け仕上塗材C	○	・吹出し ・凸部処理 ・平たん状																																																																																																																																																																																			
種類	呼び名	防火材料	仕上げの形状及び工法等																																																																																																																																																																																			
○ 複層仕上塗材	・複層塗材CE	○	・ゆず肌状 ・凸部処理 ・凹凸状																																																																																																																																																																																			
	・可とう形複層塗材CE	○	・耐候性 耐候形3種																																																																																																																																																																																			
	・複層塗材S1	○	・上塗材																																																																																																																																																																																			
	○ 複層塗材E	○	・溶媒 水系 ・溶剤系 ・弱溶剤系																																																																																																																																																																																			
	・複層塗材RE	○	・樹脂 ・アクリル系																																																																																																																																																																																			
・可とう形改修用 仕上塗材	・可とう形改修塗材CE	○	・耐候性 耐候形3種																																																																																																																																																																																			
	・可とう形改修塗材RE	○	・上塗材																																																																																																																																																																																			
	・可とう形改修塗材CE	○	・溶媒 水系 ・溶剤系 ・弱溶剤系																																																																																																																																																																																			
	・可とう形改修塗材RE	○	・樹脂 ・アクリル系																																																																																																																																																																																			
	・可とう形改修塗材CE	○	・外観 つやあり ・つやなし ・メタリック																																																																																																																																																																																			
建具の種類	かぶせ工法	撤去工法	適用箇所																																																																																																																																																																																			
・アルミニウム製建具	○	○	・建具表による																																																																																																																																																																																			
・樹脂製建具	○	○	・建具表による																																																																																																																																																																																			
・鋼製建具	○	○	・建具表による																																																																																																																																																																																			
・鋼製建具	○	○	・建具表による																																																																																																																																																																																			
・鋼製建具	○	○	・建具表による																																																																																																																																																																																			
・ステンレス製建具	○	○	・建具表による																																																																																																																																																																																			
種類	材種	線径	網目																																																																																																																																																																																			
防虫網	・ガラス繊維入り合成樹脂製 ・ステンレス (SUS316) 製 合成樹脂製	0.25mm 以上	・16-18 メッシュ																																																																																																																																																																																			
防電網	ステンレス (SUS304) 線材	1.5mm	網目寸法 15mm																																																																																																																																																																																			

・メラミン樹脂化粧板		JIS K 6903 による 厚さ (・ ※1.2)
・ポリエステル樹脂化粧板		
・ミディアムデンシティファイバーボード	W	・3 ・7 ・9 ・12
・単板張りパーティクルボード	G	・無研磨板 ・研磨板 ・10 ・12 ・15 ・18
・化粧パーティクルボード	G	・単板オーバーレイ ・塗装 ・プラスチックオーバーレイ ・10 (難燃) ・12 (難燃)
・ハードボード (素地)	H	・無研磨板 (・スタンダード・テンパード) ・研磨板 (・スタンダード・テンパード)
・ハードボード (化粧)	G	・内装用 ・外装用 ・2.5 ・3.5 ・5 ・7
・インシュレーションボード	I	A級 (・天井仕上げ ・内装仕上げ) ・9 ・12 ・15 ・18

せっこうボード等の下地 ※図示
遮音シール材
・適用する (・シーリング材 ・ジョイントコンパウンド)
・適用しない
合板類、MDF及びパーティクルボードのホルムアルデヒド放散量
・ ※規制対象外
接着剤のホルムアルデヒド放散量
・ ※規制対象外
合板類の張付け ・A種 ※B種
せっこうボードの目地工法 ・仕上げ表による

ホルムアルデヒド放散量 ※規制対象外 [6.14.2.3]

施工箇所	壁紙の種類				防火性能	備考
	紙	繊維	織物	その他		
	・	・	・	・	・準不燃・難燃 ※不燃	
	・	・	・	・	・準不燃・難燃 ※不燃	
	・	・	・	・	・準不燃・難燃 ※不燃	
	・	・	・	・	・準不燃・難燃 ※不燃	

モルタル・プラスター面の下地調整の種別 ・ ※R B種
コンクリート面の下地調整の種別 ・ ※R B種
せっこうボード面の下地調整の種別 ・ ※R B種

モルタル塗り [6.15.3.5.6]

モルタル ○現場調合材料
(セメントは改修特記仕様書 8-2 コンクリート工事による)
・既調合材料 ()

既製目地材 ・設ける 施工箇所 ()
形状 (・ ※図示)

床目地 ○設けない
・設ける (工法: ・ ※押し目地)
(目地割り ・ ※2 m程度)
(最大目地間隔 ・ ※3 m程度)

○設けない

○防水剤 (品質・性能)
(試験方法) JIS A 1404 「建築用セメント防水剤の試験方法」による

項目	品質・性能
防水剤の種類	建築用のモルタルに用いるセメント防水剤
混合割合	セメント重量の5%以下
凝結及び安定性	(凝結時間) 始発: 1時間以上 終結: 10時間以内 (安定性) 収縮性、膨張性のひび割れ及びそりの有無について確認する。
曲げ及び圧縮強度比	防水剤を混入したものの、しないものの曲げ強度比及び圧縮強度比 70%以上
吸水比	防水剤を混入したものの、しないものの吸水比 95%以下
透水比	防水剤を混入したものの、しないものの透水比 80%以下 ただし、透水試験における水圧は、3.0×10 Paと ¹ 1時間行う

壁面の仕上げ厚又は塗り厚が25mmを超える場合の下地処理

○ タイル張り [6.16.2~4]

伸縮調整目地の位置
床タイル (・図示 ・ ※縦、横とも4m以内ごと)
床タイル以外 (・図示 ・)
伸縮調整目地のシーリング材、目地寸法は改修特記仕様書第3章による
・セメントモルタルによるタイル (セラミックタイル) 張りタイルの形状、寸法等

○陶磁器質タイル: 外装-モザイクタイル25mm (施釉)
※海上保安庁指定品とする。
(参考取扱先) (株) サンワ 0572-27-3355
所在地: 岐阜県多治見市旭ヶ丘9-3-1

○色: 白 (マンセル値9.5)
(色見本を監督職員に提出し、承諾を得ること)
○工法: 改良圧着張り

○張り付け用材料: 白色セメント
材料: 白色セメント+顔料 (重量比5%)

標準的な曲がりの役物は一体成形とする
試験張り ・行う ○行わない
見本焼き ・行う ○行わない

既調合モルタル
モルタル下地としたタイル工事に使用する張付け用モルタルとして、セメント、細骨材、混和剤等を予め工場において所定の割合に配合した材料とする。
(品質、性能)

項目	品質・性能
保水率	70.0%以上
単位容積質量	1.8kg/L以上
接着強さ	標準時 0.6N/mm以上 温冷繰り返し後 0.4N/mm以上
長さ変化率	0.2%以下
曲げ強さ	4.0N/mm以上

(試験方法)
(1) 試料の調製
製造業者の定める、正味質量と標準練り上がり量より換算して、所定量の試料を練り上げるのに要する材料と練り混ぜ水を計算して用意する。
練り混ぜは、JIS R5201 「セメントの物理試験方法」の10.2に規定する練り混ぜ機を使用し、練りばちに用意した水を入れ、攪拌しながら30秒間に材料を投入し、3分間練り混ぜて試料とする。
(2) 保水率の試験方法
JIS R3202 「フロート板ガラス及び磨き板ガラス」に規定する磨き板ガラス (縦150mm、横150mm、厚さ5mm) の上にJIS P3801 「ろ紙 (化学分析用)」に規定する5Aろ紙 (直径11cm) をのせ、その中央部に真ちゅう製リング型わく (内径50mm、高さ10mm、厚さ3mm) を設置し、(1) で調製した試料を金べらで平滑に詰込む。
その後、直ちにリング型わく上部にガラス板を当てて上下を逆さまにし、ろ紙部分が上部になるよう静置する。60分後にろ紙へにじみ出した水分の広がり最大と認められた方向とこれに直角な方向の長さをノギスを用いて、1mmの単位まで測定する。試験は3回実施し、その平均値を用いて次式により保水率を求める。
保水率=50/平均値×100
(注) 50: リング型わくの内径 mm
(3) 単位容積質量の試験方法
JIS A 1171 「ポリマーセメントモルタルの試験方法」に準ずる。
(4) 接着強さ (標準時) の試験方法
イ) 適用タイルが「モザイクタイルの場合」
(試験体の作製) JIS A5371 「プレキャスト無筋コンクリート製品」に規定する普通平板N-300を下地板とし、表面をサンドペーパーを用いて軽く研磨した後、水湿しを行い直ちに(1)で調製した試料を厚さ5mmになるように塗付ける。直ちにJIS A 5209 「セラミックタイル」に規定するタイルで押し出し又はプレス成形による施ゆらの「50角ユニットタイル (外の寸法約300mm×300mm)」を圧着する。
その後、28日間、温度20±2℃、湿度90%以上の状態で湿空養生を行い、これを試験体とする。
(試験方法) JIS A6909 「建築用仕上塗材」の7.10付着強さ試験に準じて行う。試験体をダイヤモンドカッターを用いて、タイル周辺に沿って下地板に達するまで切り込みを入れ、エポキシ樹脂接着剤で鋼製アタッチメントを接着し、引張試験機を用いて接着強さ試験を行う。なお、接着強さの測定箇所は、試験体の中からまんべんなく5箇所を選び抜き取る。(全てが0.6N/mm以上を確保していること)

7章 舗装工事


○再生材 [22.1.3]
※ 使用する ・使用しない
○盛土材料 [22.2.3]
路床の盛土材料 ・A種 ※B種 ・C種 ・D種
○遮断層及び凍土抑制層用材料 [22.2.3]
遮断層 ※川砂・海砂又は良質な山砂
凍土抑制層 ※再生クラッシャーラン ・切込砂利砕石
○路床土の支持力比 [22.2.5]
※ 行わない ・行う (※乱した土・乱しさない土)
○路床締固め度の試験 [22.2.5]
※ 行わない ・行う
○路盤材料 [22.3.3][表22.3.3]
※ 再生クラッシャーラン RC-40
・クラッシャーラン C-40
・クラッシャーランスラグ CS-40
○コンクリート舗装 [22.5.3]
早強セメント ・使用する ※使用しない
溶接金網 ※あり ・なし

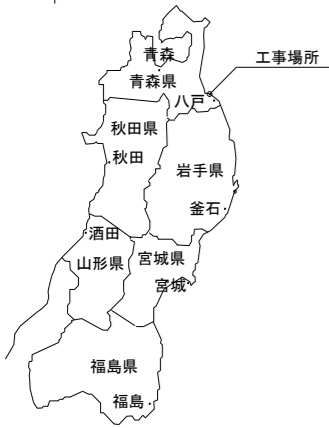
8章 金属工事

○金属種別 [22.3.3]
※ 各階床開口部転落防止ヒンジ
※ 踊場手摺 ※手掛け金物
○表面仕上げ
#400程度 (フード付きガラリ、ヒンジはメーカー仕様による)
○材質
ステンレスSUS304

9章 その他

○植生 [22.3.3]
※ 工事終了後、既存の芝を撤去の上、芝造園技能士指示のもと復旧する。

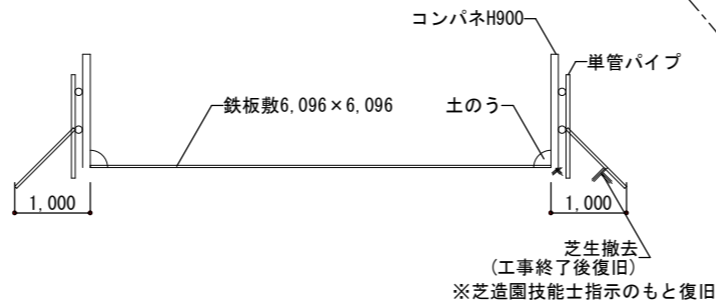
工事件名 階上灯台改良改修工事	令和3年度	
箇所名 階上灯台	図番 A-05	
図面名称 特記仕様書5	縮尺 図示	原図 A3版
 第二管区海上保安本部 交通部	設計 門脇	年月 R3.7



位置図



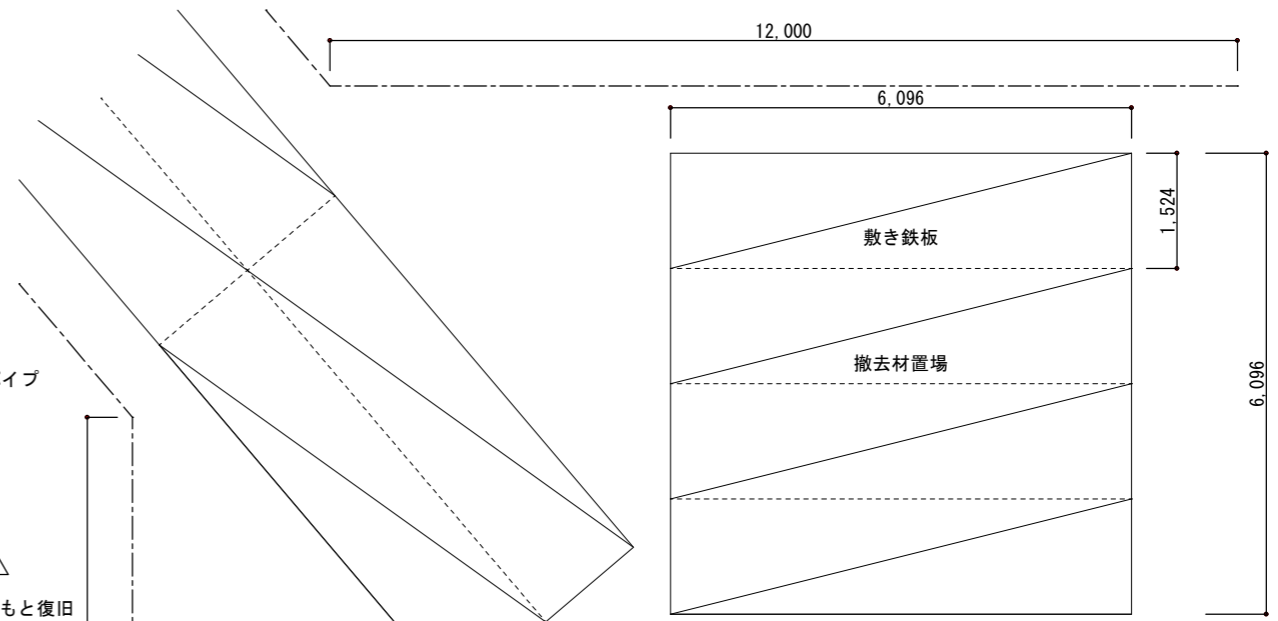
案内図



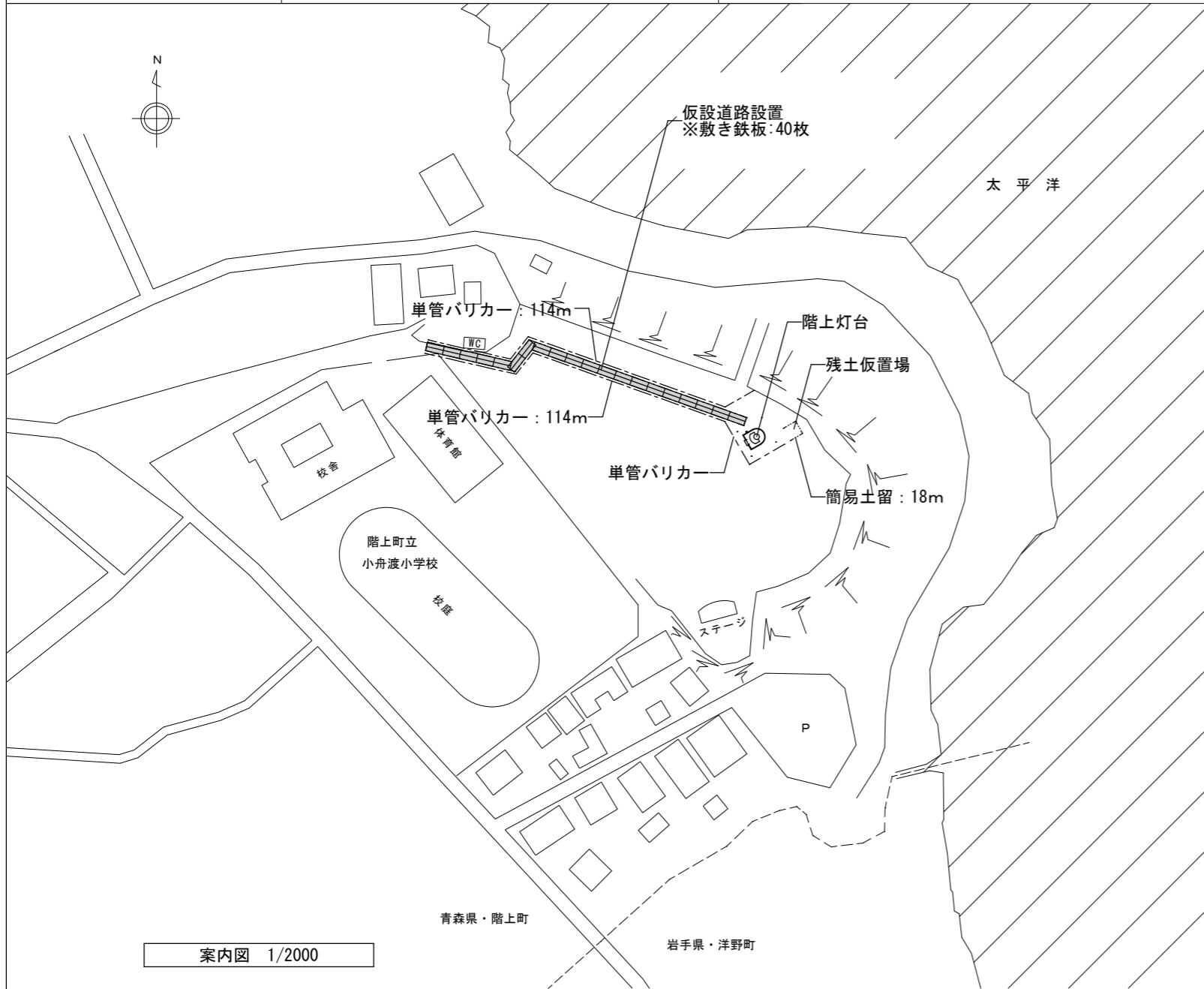
残土仮置場図

簡易土留設置図 S=1/100 (参考)

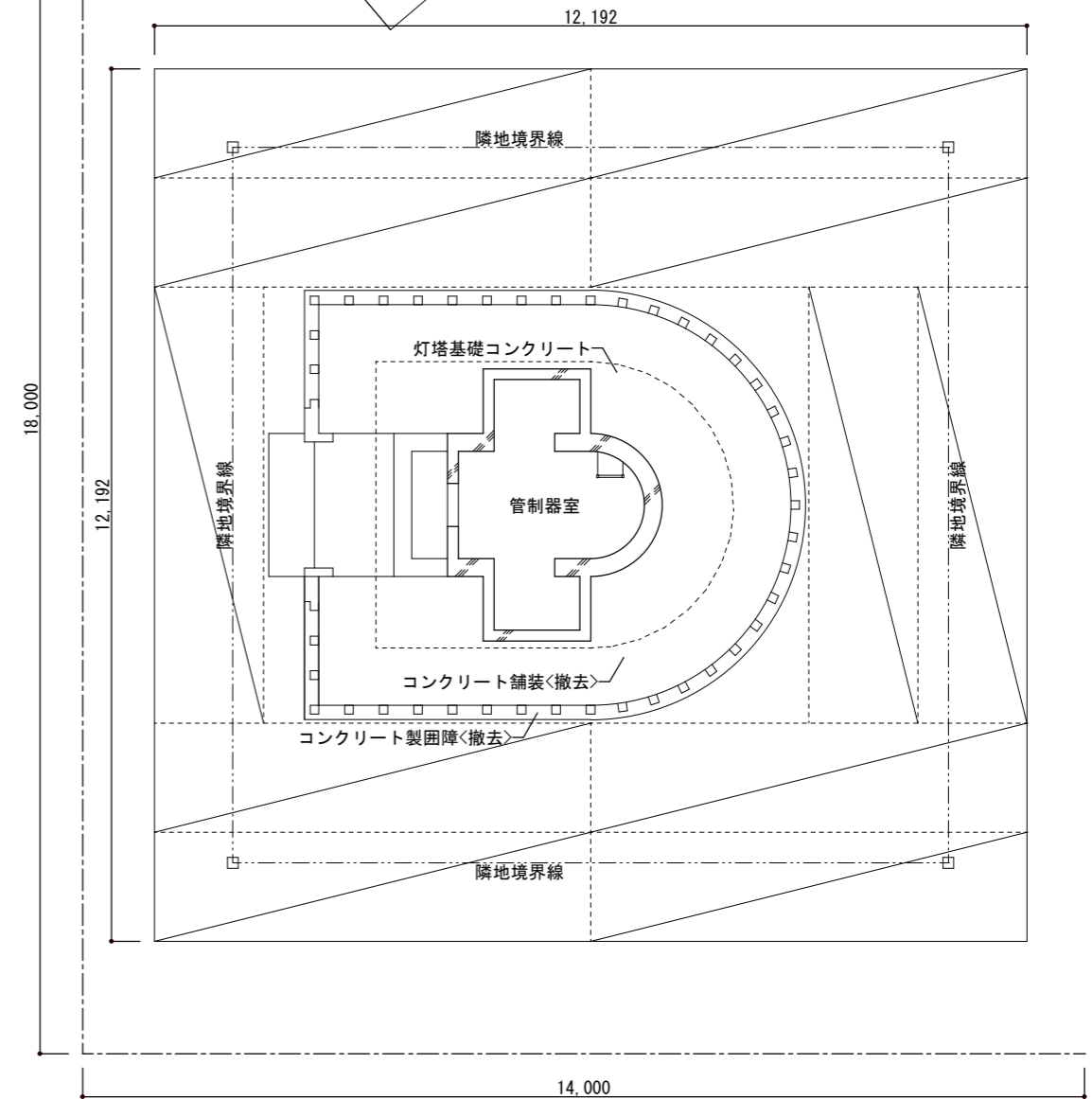
※簡易土留は3方向に設置



仮設道路設置
※敷き鉄板:40枚



案内図 1/2000

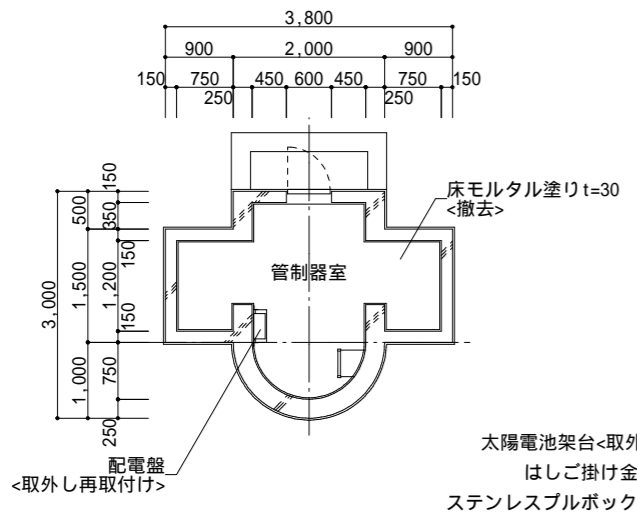


(現況) 配置図 S=1/100

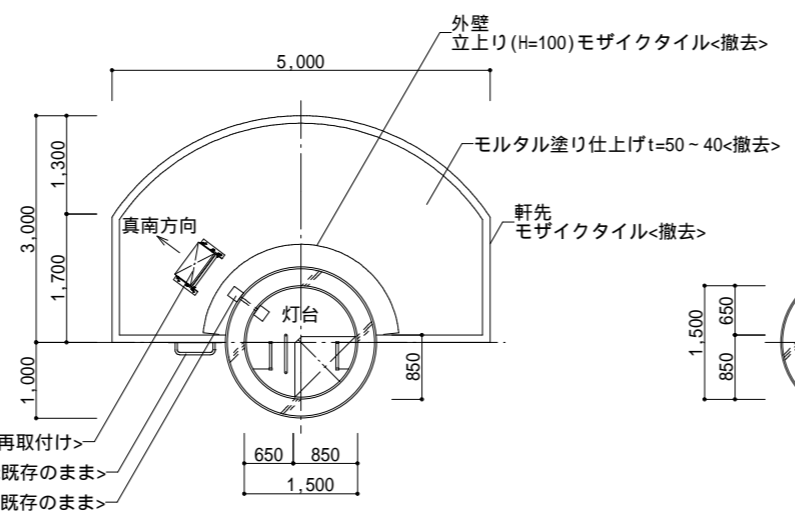
※灯台周囲敷き鉄板:11枚
・資材置場敷き鉄板:4枚

工事件名 階上灯台改良改修工事	令和3年度
箇所名 階上灯台	図番 A-06
図面名称 位置図・案内図・配置図	縮尺 図示 A3版
第二管区海上保安本部 交通部	設計 門脇 年月 R3.7

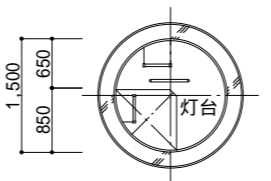
工 事 概 要	箇 所	工 事 概 要	備 考	
	1: 耐震補強工事	灯塔基礎	フーチングコンクリート増打ち	増打ち t = 200 - 250
		灯塔管制器室	梁側面・下端コンクリート打増	
	2: 防水改修工事	管制器室屋根	既設モルタル撤去のうえ塗膜防水新設 ステンレス製手掛け金物新設	樹脂モルタル新設、ウレタン系塗膜防水(X-2)防滑仕上げ 手摺新設
灯塔踊場		既設モルタル撤去のうえ塗膜防水新設	樹脂モルタル新設、ウレタン系塗膜防水(X-2)防滑仕上げ FRP製ハッチ撤去・新設、手摺一部新設	
3: 内装、建具改修工事	灯塔管制器室	内壁、天井、床モルタル撤去、塗り替え		
	灯塔2、3、4階	天井・壁モルタル撤去、塗り替え		
4: 外構改修工事	構内舗装	既設解体及び灯塔基礎施工後 透水性カラーアスファルト舗装復旧		
	構内囲障	既設解体後ブラ擬木にて復旧		



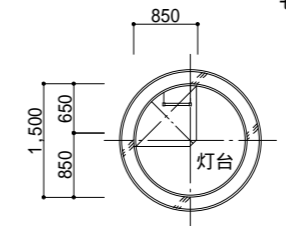
1階平面図(改修前) S=1/100



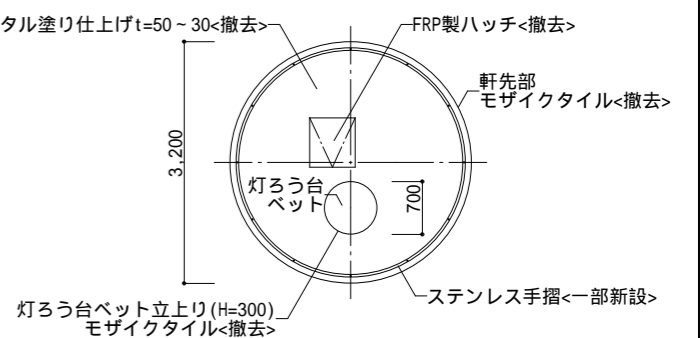
2階平面図(改修前) S=1/100



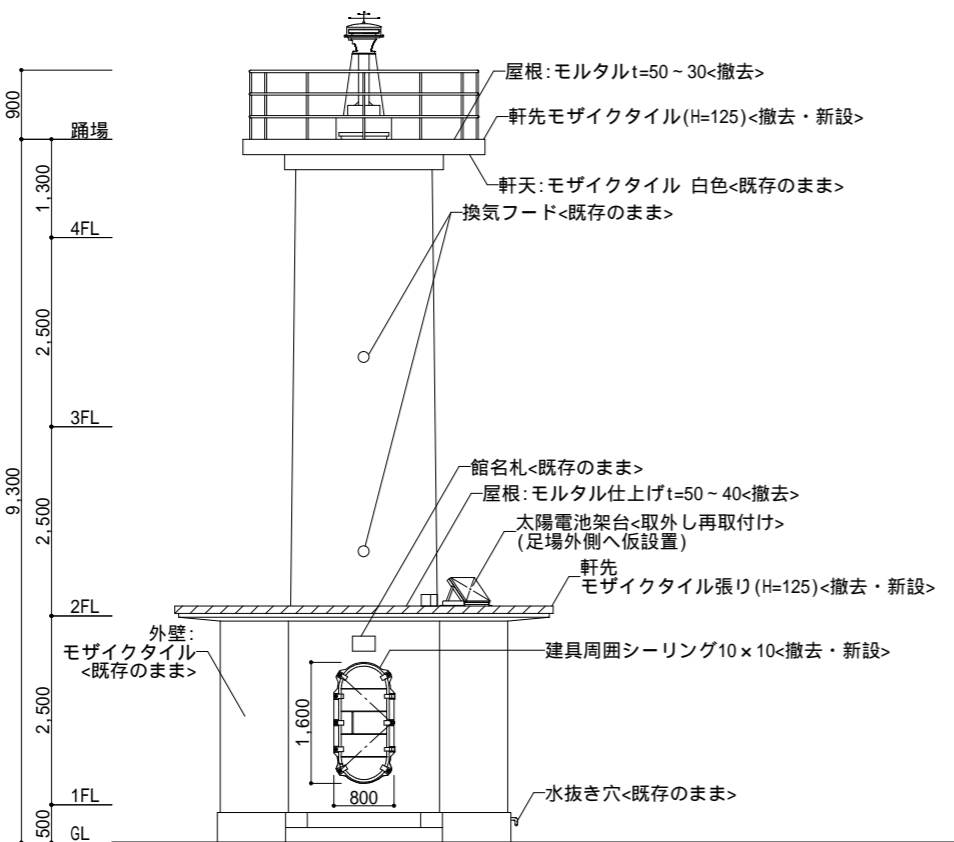
3階平面図(改修前) S=1/100



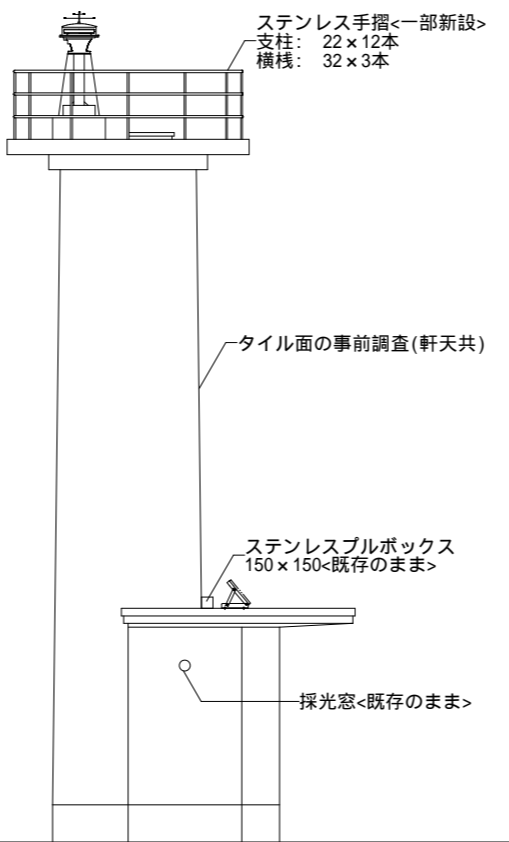
4階平面図(改修前) S=1/100



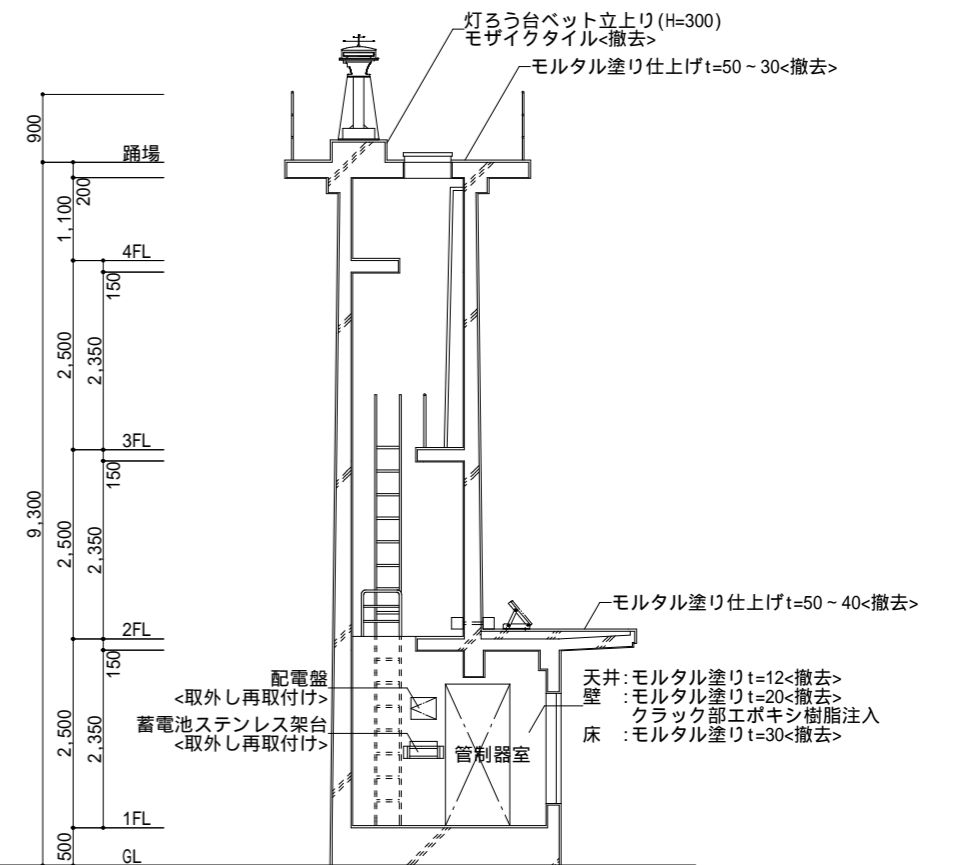
灯塔踊場平面図(改修前) S=1/100



東立面図(改修前) S=1/100

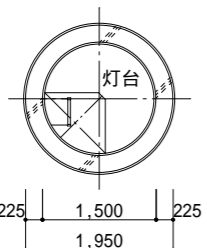


南立面図(改修前) S=1/100

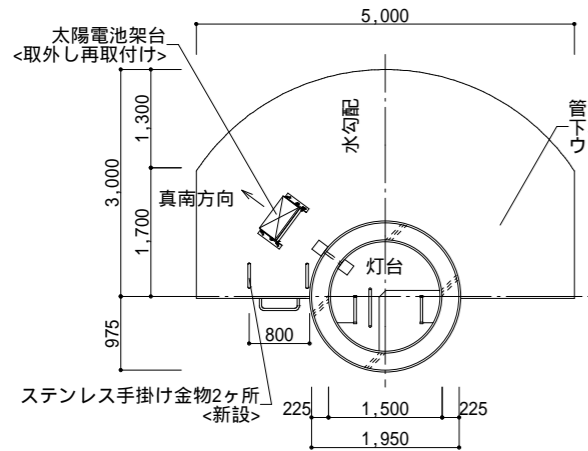


断面図(改修前) S=1/100

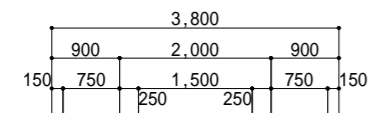
工事件名	階上灯台改良改修工事		令和3年度
箇所名	階上灯台	図番	A-07
図面名称	改修前 平面図・立面図・断面図	縮尺	原図
第二管区海上保安本部 交通部	設計	年月	A3版
	門脇		R3.7



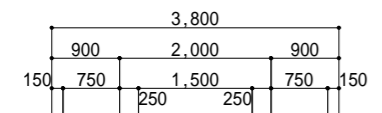
2階天井伏図 (改修後) S=1/100



2階平面図 (改修後) S=1/100



1階天井伏図 (改修後) S=1/100



3階天井伏図 (改修後) S=1/100

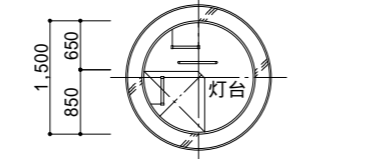


4階天井伏図 (改修後) S=1/100

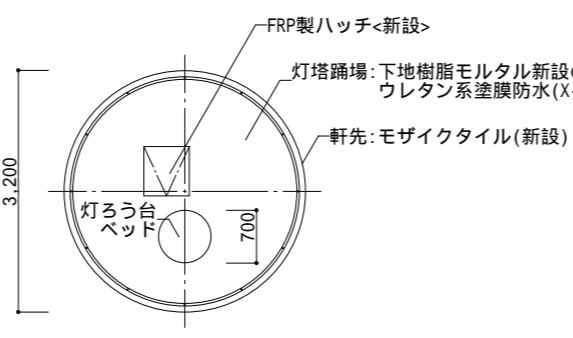
4階平面図 (改修後) S=1/100



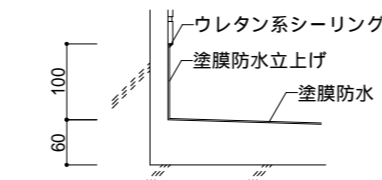
3階平面図 (改修後) S=1/100



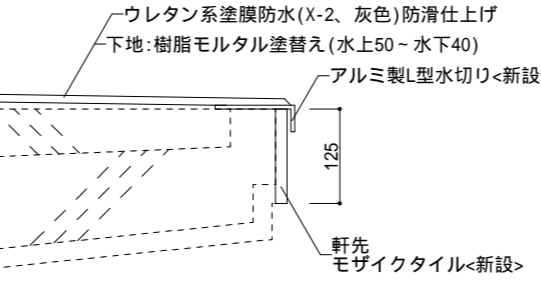
1階平面図 (改修後) S=1/100



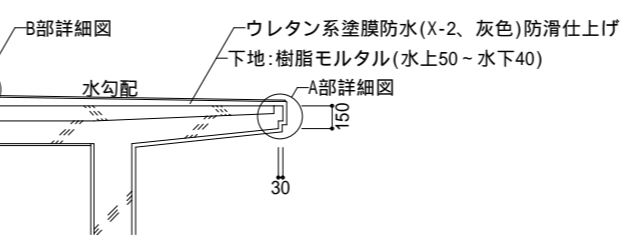
灯塔踊場平面図 (改修後) S=1/100



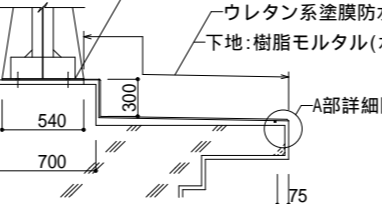
B部詳細図 屋根入隅部詳細図 S=1/10



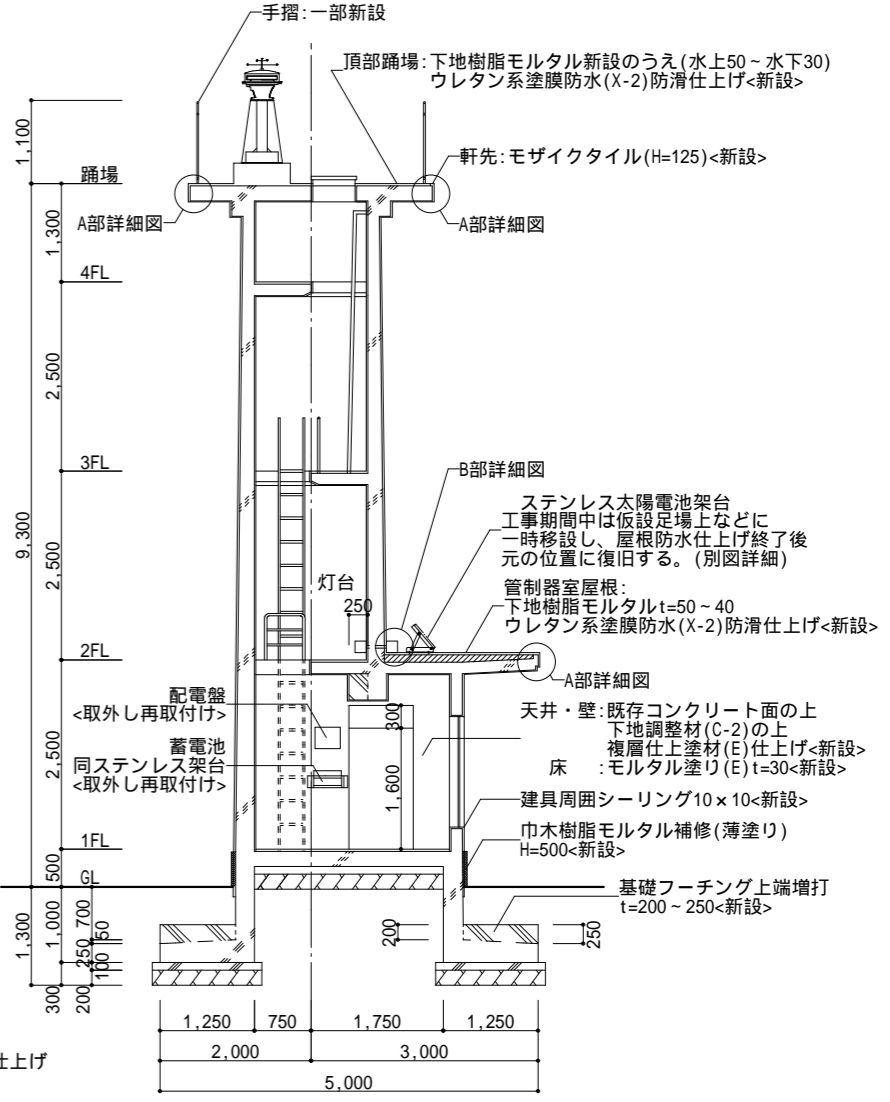
A部詳細図 防水端部納まり詳細図 S=1/10



管制器室屋根断面図 S=1/50

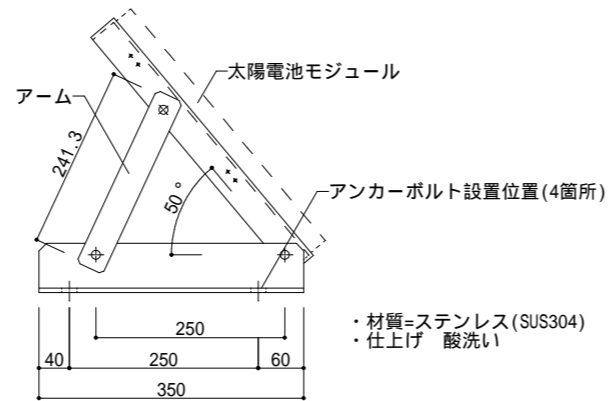
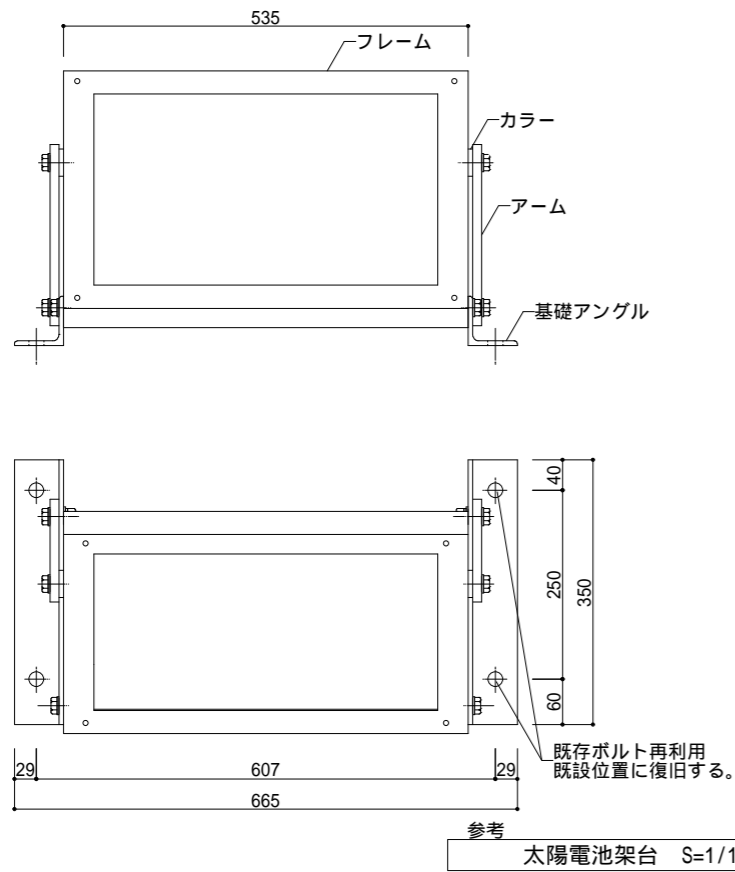
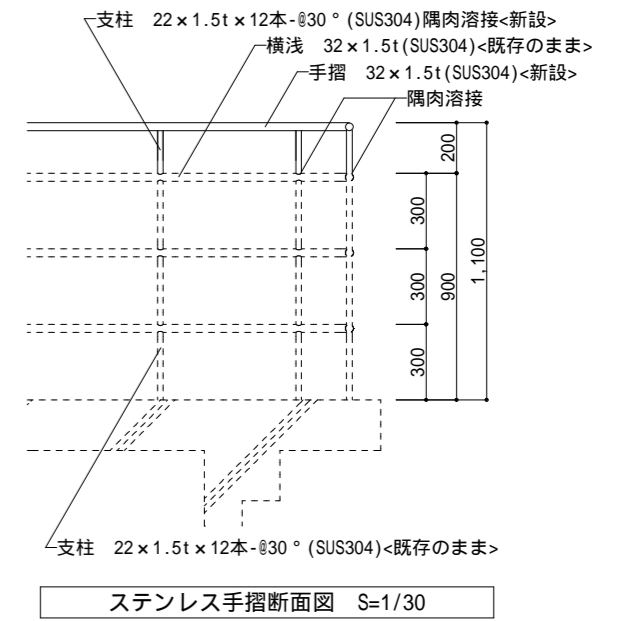
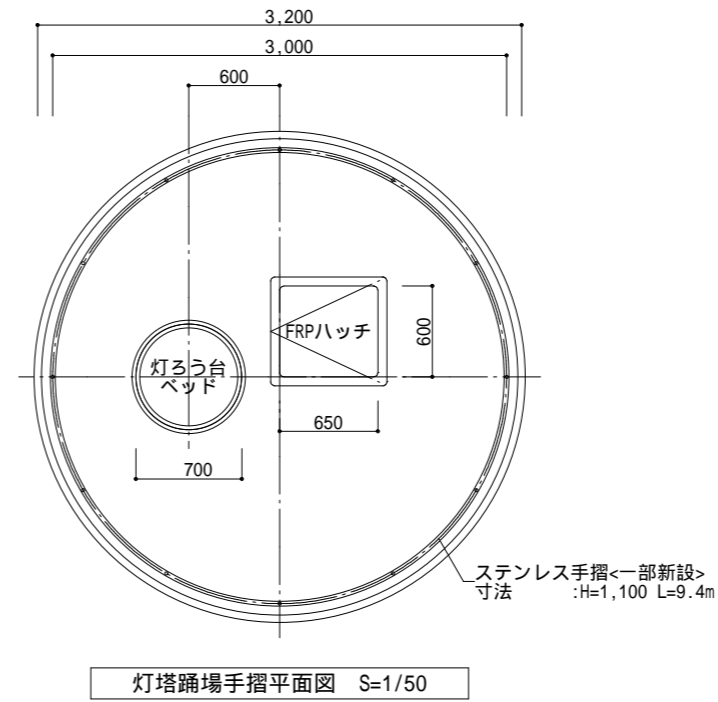
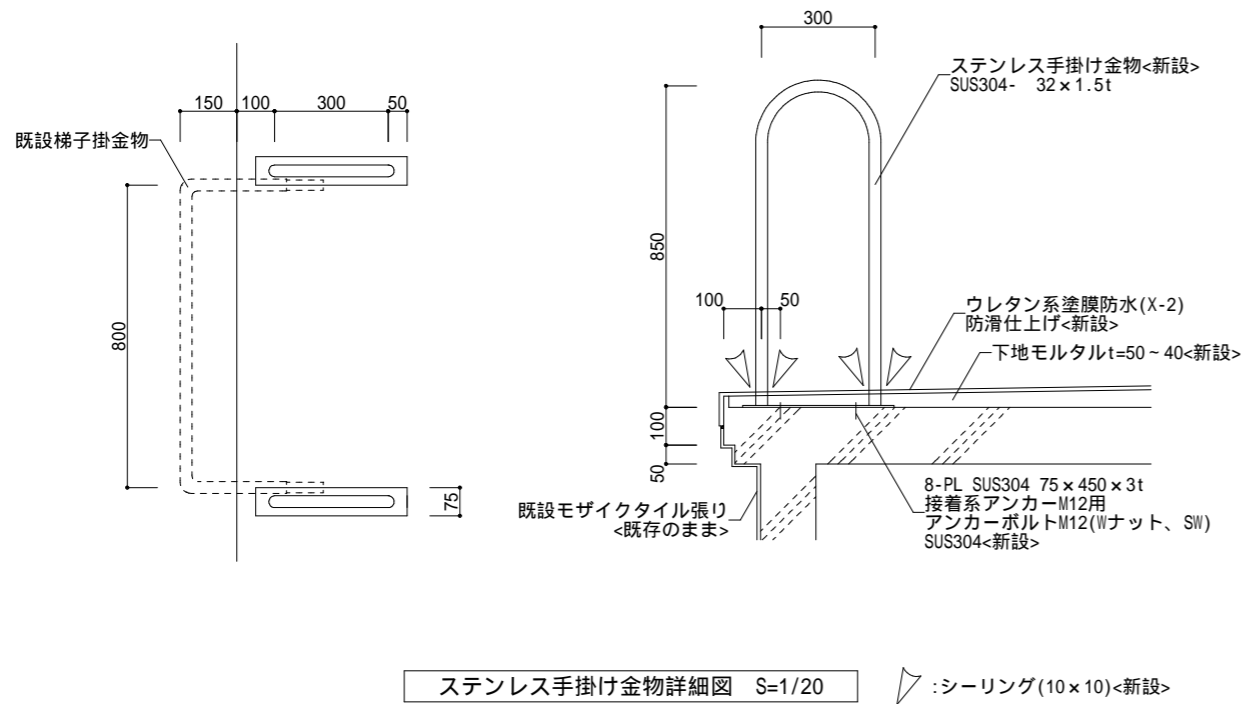


灯塔踊場断面図 S=1/50

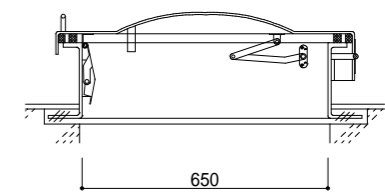
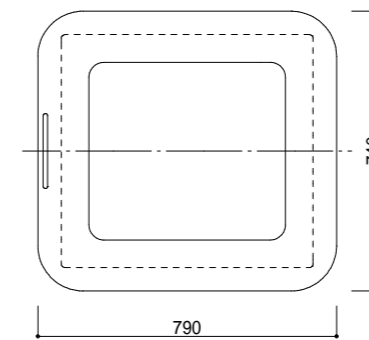


断面図 (改修後) S=1/100

工事名	階上灯台改良改修工事		令和3年度
箇所名	階上灯台	図番	A-08
図面名称	改修後 平面図・天井伏図・断面図	縮尺	原図
		図示	A3版
		設計	年月
		門脇	R3.7
第二管区海上保安本部 交通部			



室内の既設配電盤、蓄電池・同架台について
室内モルタル撤去時、新設時は養生のうえ
壁面から浮かし(既設ボルト使用)施工する。
また、壁面の配管、配線はサドル止めされているので
モルタル塗り替え終了後、既設と同様に復旧する。

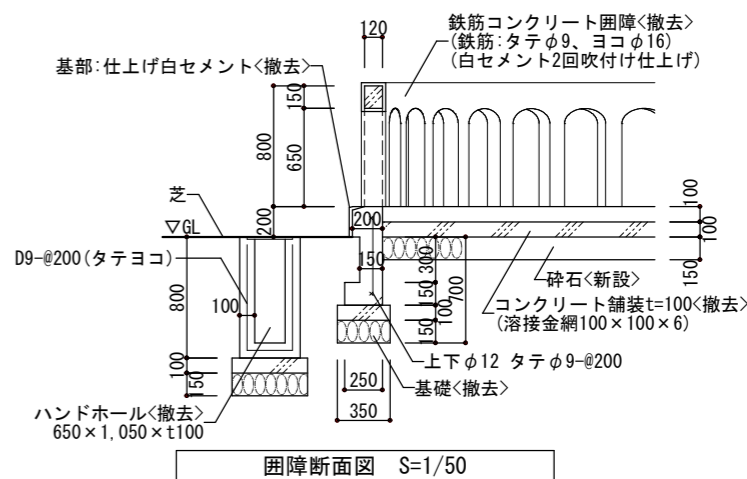
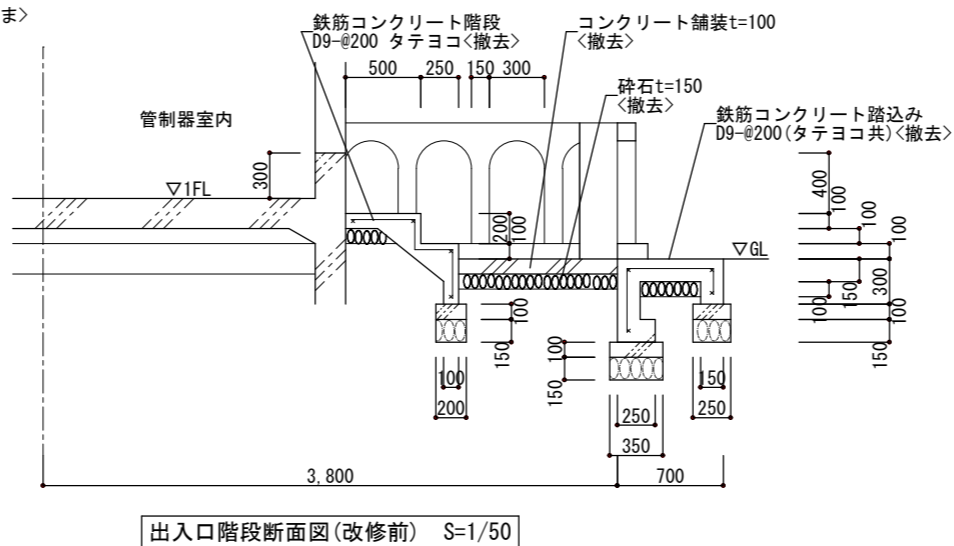
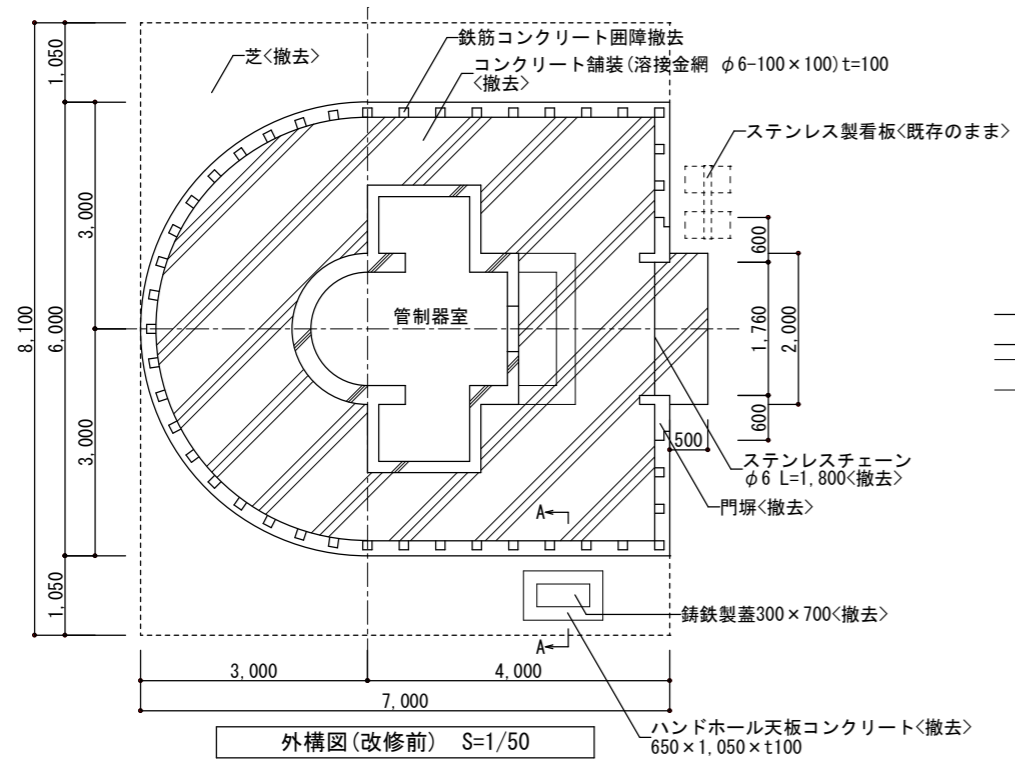


材質 本体:強化プラスチック(FRP)
開口寸法 600x650
付属品 アームストッパー(SUS-304)2個【付属】
パッキン:ネオプレン及びPEパッキン【付属】
蝶番(SUS-304)2個【付属】
取手:1箇所(SUS304)【付属】
メーカー指示
埋込深 メーカー指示
参考メーカー名:株式会社ニュープロド

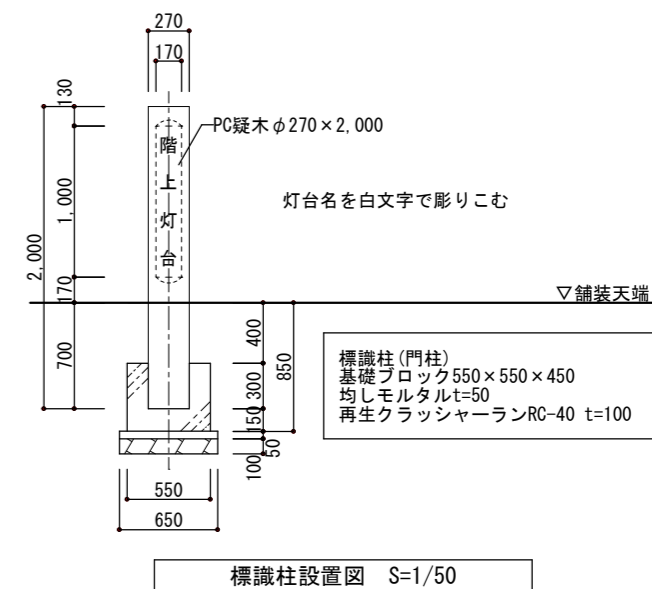
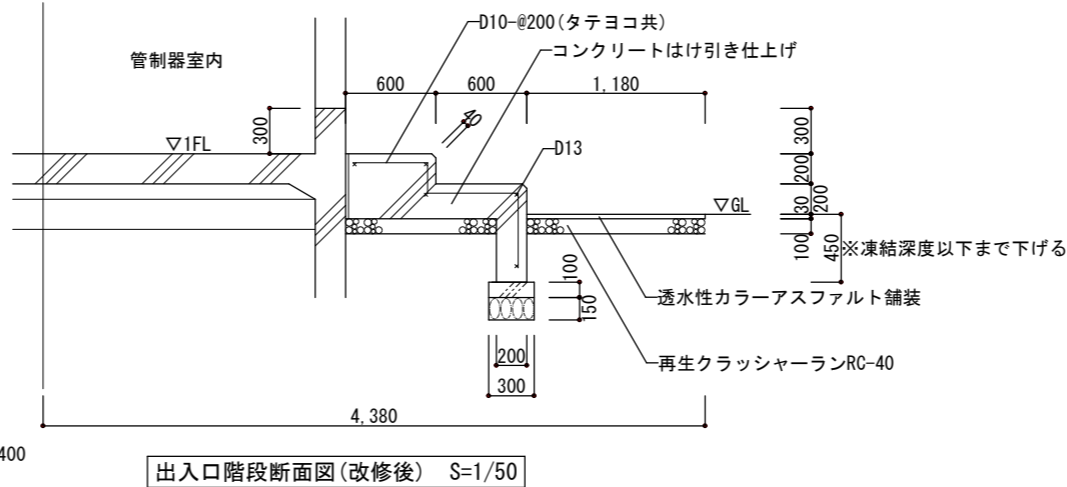
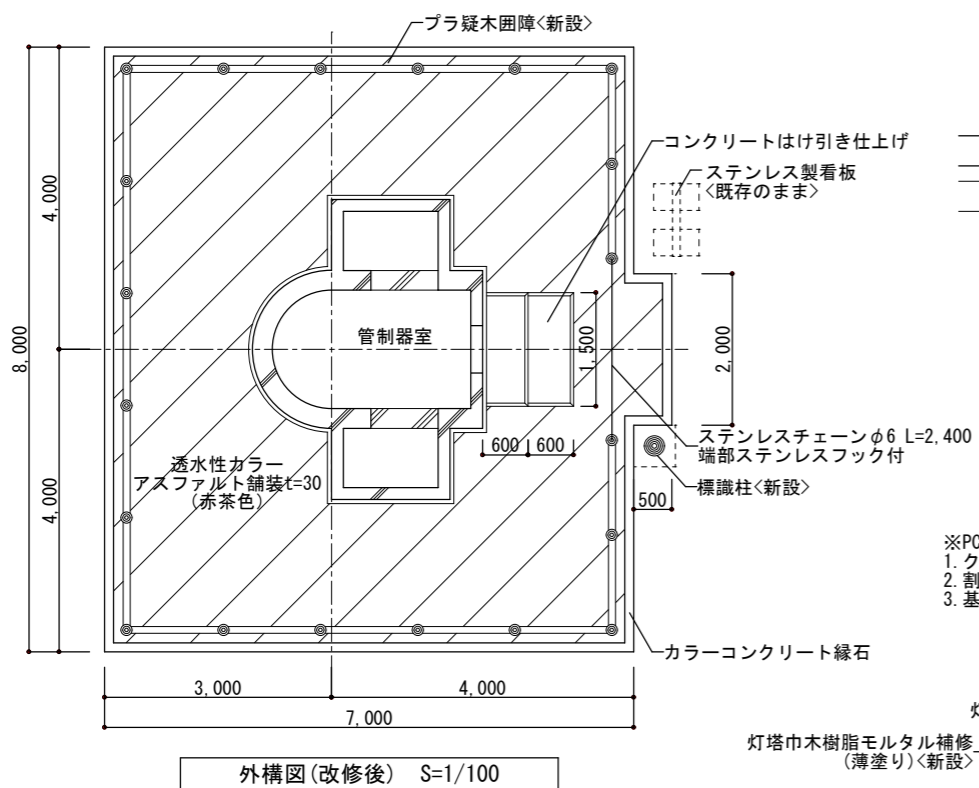
FRPハッチ詳細図 S=1/20

工事件名	階上灯台改良改修工事	令和3年度
箇所名	階上灯台	図番 A-09
図面名称	雑詳細図	縮尺 原図 図示 A3版
設計	第二管区海上保安本部 交通部	年月 門脇 R3.7

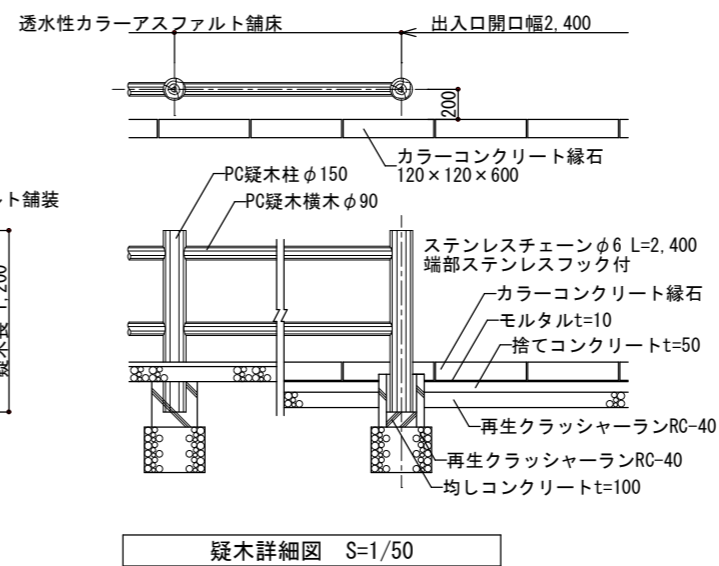
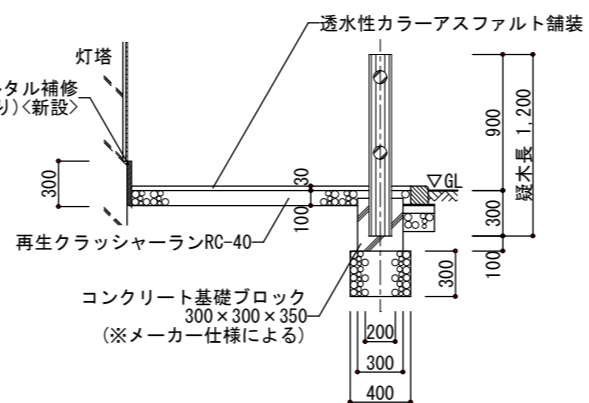
外構図(改修前)






外構図(改修後)

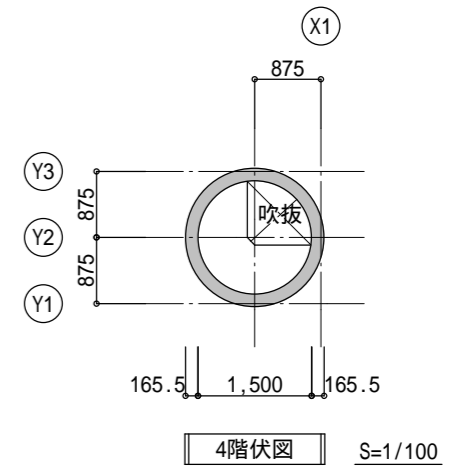
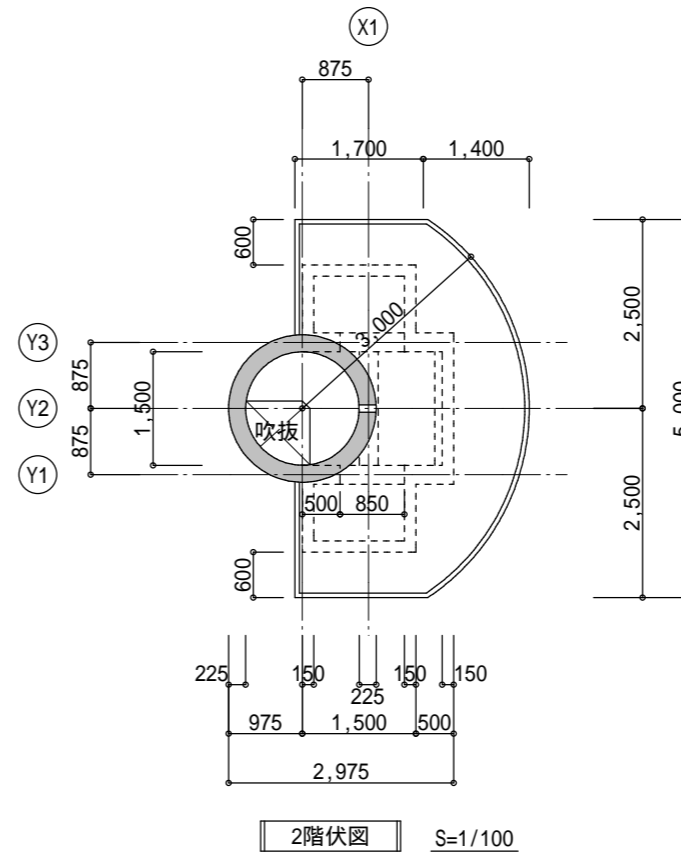
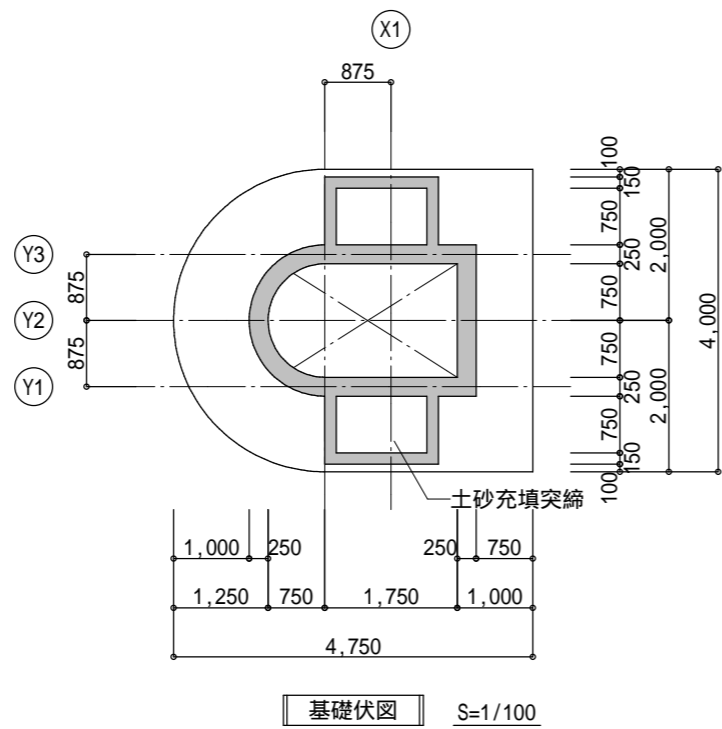
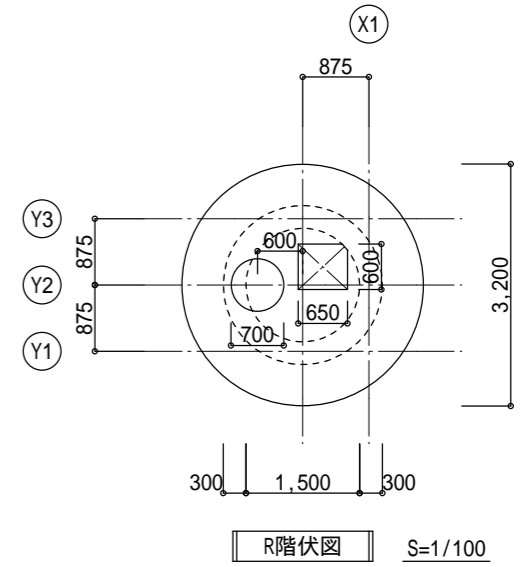
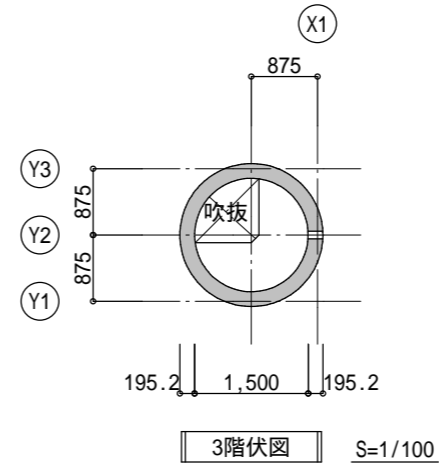
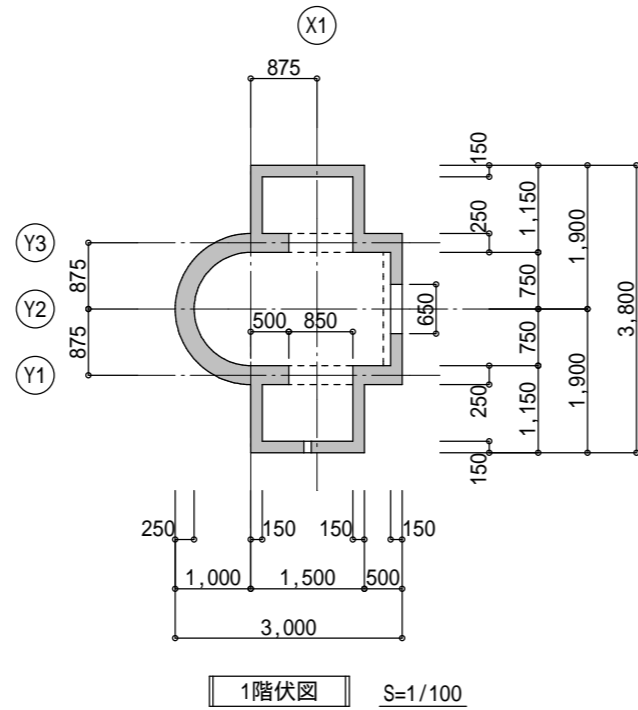
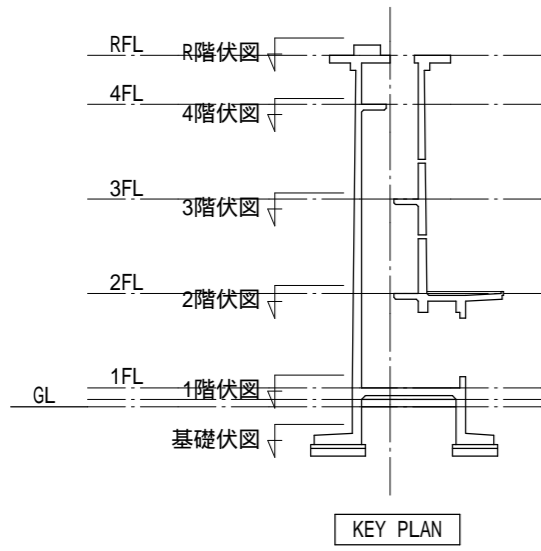


※PC疑木仕様
1. クサギ仕上げ
2. 割付は現場合わせとする
3. 基礎ブロック寸法は、メーカー推奨品を選定する

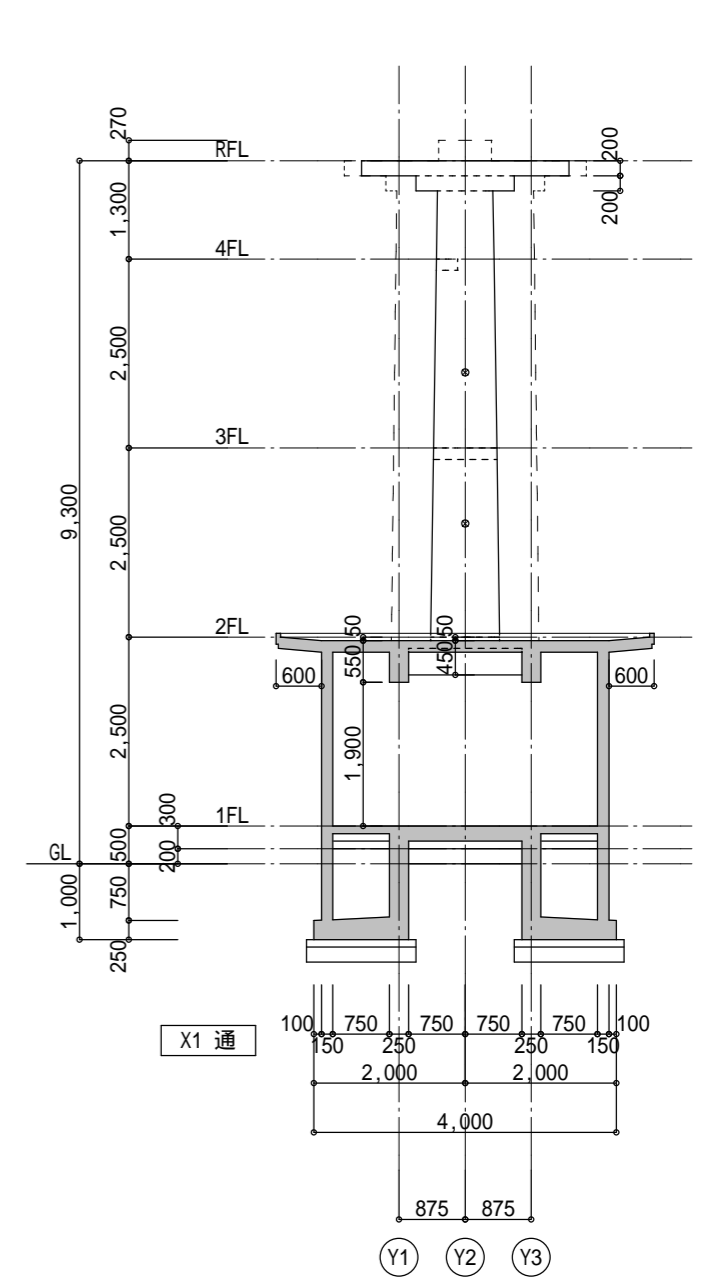
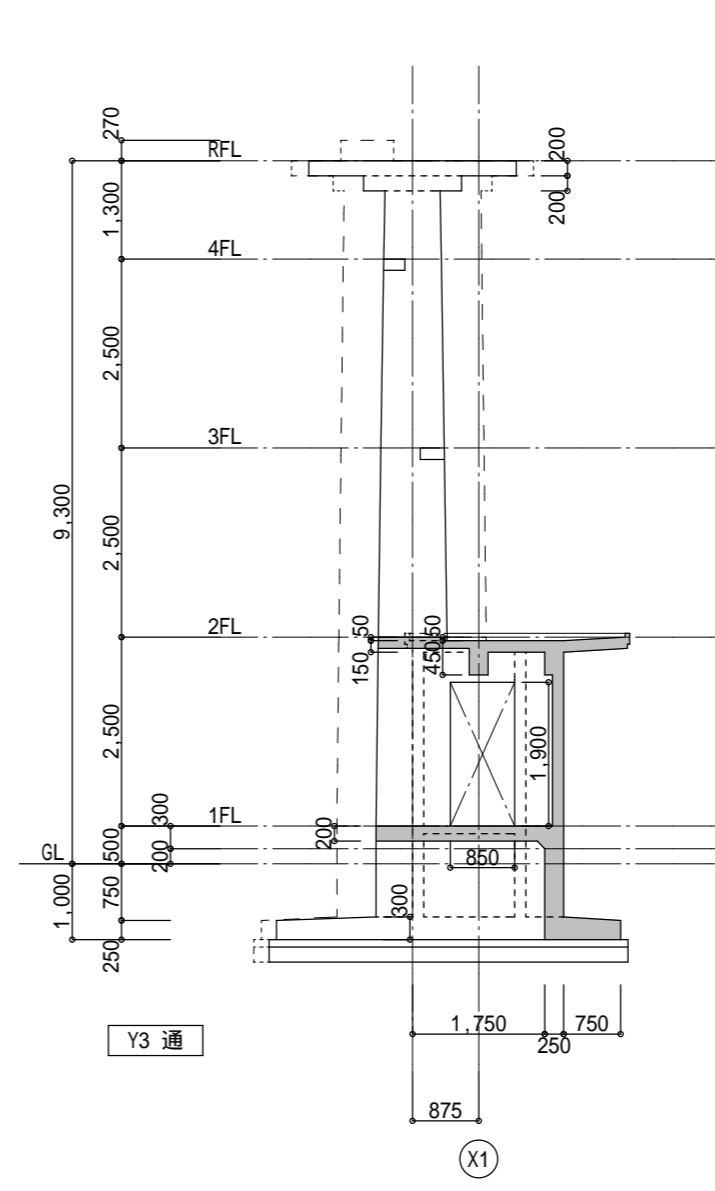
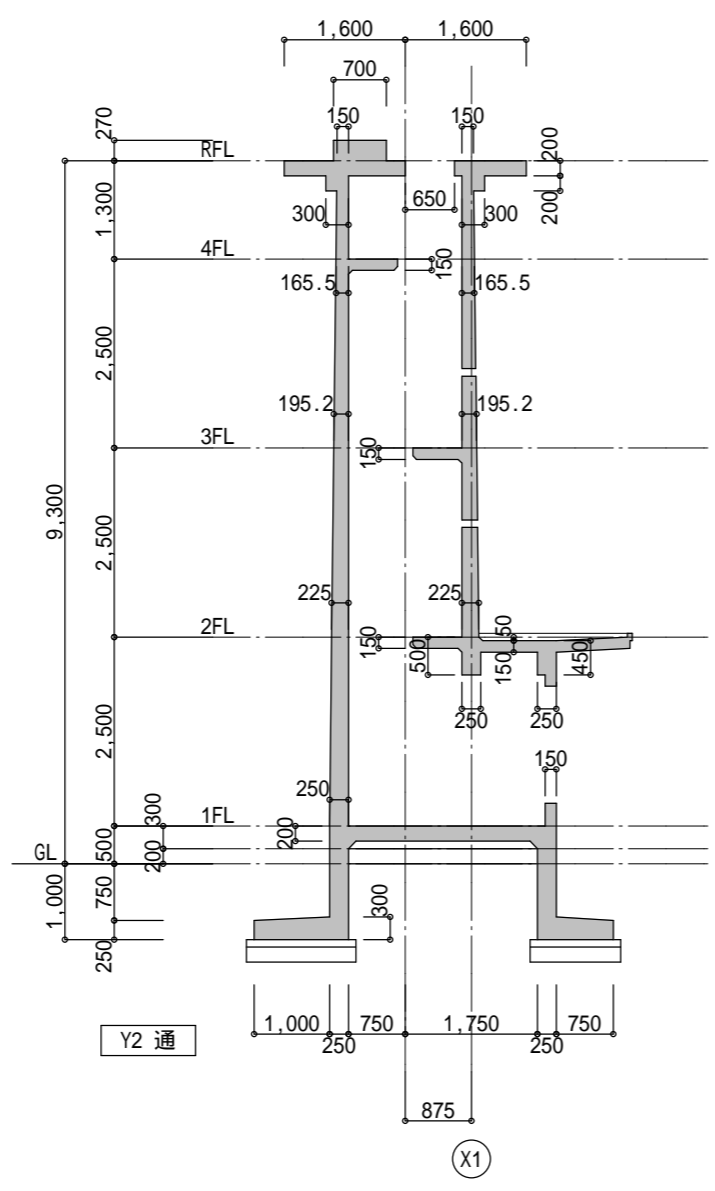
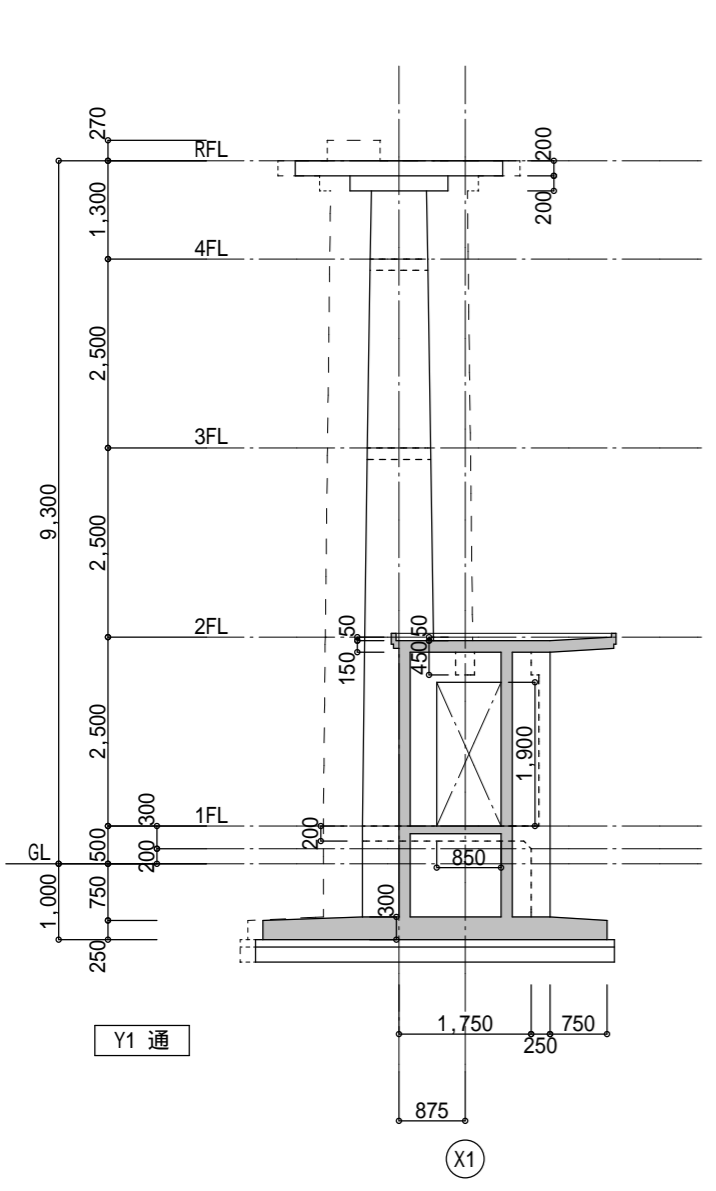



工事件名	階上灯台改良改修工事	令和3年度
箇所名	階上灯台	図番 A-10
図面名称	外構図(撤去・改修図)	縮尺 原図 A3版
	第二管区海上保安本部 交通部	設計 年月 門脇 R3.7

8章 耐震改修工事 共通事項	<p>○ 適用範囲</p> <p>○ 改修標準仕様書 第8章 耐震改修工事 ・改修標準仕様書において 第8章 耐震改修工事以外の改修工事で 第8章 を引用している部分</p> <p>・ 工事内容</p> <p>○ 現場打ち鉄筋コンクリート壁の増設工事</p> <p>・ 鉄骨ブレースの設置工事</p> <p>・ 柱補強工事 (溶接金網巻き工法又は溶接閉鎖フープ巻き工法)</p> <p>・ 柱補強工事(鋼板巻き工法又は帯板巻き付け工法)</p> <p>・ 連続繊維補強工事</p> <p>・ 耐震スリット新設工事</p> <p>・ 免震改修工事</p> <p>・ 制振改修工事</p> <p>・ 土工事及び地業工事</p> <p>・</p> <p>○ 既存部分の処理等 [8.21.2、3][8.22.2、3][8.23.2、3]</p> <p>既存構造体の撤去 [8.24.4][8.25.2][8.28.2]</p> <p>撤去範囲</p> <p>・ 図示による()</p> <p>はつり出した鉄筋及び鉄骨の処置</p> <p>・ 図示による()</p> <p>既存構造体コンクリート面の目荒らしの程度及び範囲</p> <p>○ 既存柱、梁面 ・ 打継ぎ面の15～30%程度に、平均深さ2～5mm(最大7mm)程度の凹凸を全体にわたってつける</p> <p>○ 既存壁 ・ 打継ぎ面の10～15%程度に、平均深さ2～5mm(最大7mm)程度の凹凸を全体にわたってつける</p> <p>・</p> <p>既存杭の撤去等</p> <p>・ 撤去範囲及び撤去方法</p> <p>・ 図示による()</p> <p>・ 杭頭部の処理</p> <p>・ 図示による()</p> <p>・ 既存杭の補強</p> <p>・ 図示による()</p> <p>・ 既存杭の健全性を確認する試験</p> <p>・ 行う ・ 図示による()</p> <p>・ 行わない</p>	<p>・ 溶接金網 [8.2.2]</p> <p>○ 鉄筋の継手及び定着 [8.3.4][8.4.2、3]</p> <p>○ 鉄筋のかぶり厚さ及び間隔(溶接金網を含む) [8.3.5]</p> <p>・ 圧接完了後の圧接部の試験 [8.3.8]</p> <p>・ 機械式継手 [8.4.2]</p> <p>・ 溶接継手 [8.4.3]</p> <p>・ 割裂補強筋 [8.21.6][8.22.7]</p>	<p>鉄線の形状等 [8.2.2]</p> <table border="1"> <tr> <th>種類</th> <th>種類の記号</th> <th>鉄線の形状、網目、寸法、鉄線の径(mm)</th> <th>使用部位</th> </tr> <tr> <td>・ 溶接金網</td> <td>WFP</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>・ 鉄筋格子</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table> <p>鉄筋の継手の方法等 [8.3.4][8.4.2、3]</p> <table border="1"> <tr> <th>適用箇所</th> <th>継手方法</th> <th>呼び径(mm)</th> </tr> <tr> <td>・ 柱、梁の主筋</td> <td>・ ガス圧接</td> <td>・ 機械式継手</td> <td>・ 溶接継手</td> </tr> <tr> <td>・ 耐力壁</td> <td>・ 重ね継手</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>○ その他の鉄筋</td> <td>○ 重ね継手</td> <td>D13, D16</td> <td></td> </tr> </table> <p>継手位置</p> <p>○ 図示による()</p> <p>柱及び梁の主筋の重ね継手の長さ</p> <p>・ 図示による()</p> <p>耐力壁の重ね継手の長さ</p> <p>・ 図示による(構造関係共通事項(配筋標準図)3.1表3.1)</p> <p>・ 図示による(構造関係共通事項(配筋標準図)3.1(a)(3))</p> <p>鉄筋の定着の長さ</p> <p>・ 図示による()</p> <p>最小かぶり厚さ</p> <p>・ 図示による()</p> <p>○ 60mm以上</p> <p>軽量コンクリートを適用する場合</p> <p>・ あり 適用箇所()</p> <p>・ 最小かぶり厚さに加える厚さ()mm</p> <p>・</p> <p>耐久性上不利な箇所がある場合(塩害を受けるおそれのある部分等)</p> <p>・ なし</p> <p>・ あり 適用箇所()</p> <p>・ 最小かぶり厚さに加える厚さ()mm</p> <p>・</p> <p>超音波探傷試験</p> <p>行う(全数圧接部)</p> <p>適用箇所 ・ 図示による()</p> <p>H12建告第1463号に適合する性能</p> <p>・ A級</p> <p>機械式継手の種類</p> <p>・ 図示による()</p> <p>・</p> <p>適用箇所 ・ 図示による()</p> <p>H12建告第1463号に適合する性能</p> <p>・ A級</p> <p>溶接継手の工法</p> <p>・ 図示による()</p> <p>割裂補強筋の適用 [8.21.6][8.22.7]</p> <table border="1"> <tr> <th>種類</th> <th>材料</th> <th>材質</th> <th>径</th> <th>本数ℓ/ℓ等</th> <th>適用箇所</th> </tr> <tr> <td>・ スリット鉄筋</td> <td>鉄筋コンクリート用棒鋼</td> <td>SR235</td> <td>6</td> <td>スリット径の径(mm)</td> <td rowspan="2">図示</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td>9</td> <td>スリット径のℓ/ℓ(mm)</td> </tr> <tr> <td>・ はしご筋</td> <td>鉄筋コンクリート用棒鋼(異形鉄筋)</td> <td>SD295A</td> <td>D10</td> <td>壁面内方向</td> <td>()</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>壁面外方向</td> <td>()</td> </tr> </table>	種類	種類の記号	鉄線の形状、網目、寸法、鉄線の径(mm)	使用部位	・ 溶接金網	WFP			・ 鉄筋格子				適用箇所	継手方法	呼び径(mm)	・ 柱、梁の主筋	・ ガス圧接	・ 機械式継手	・ 溶接継手	・ 耐力壁	・ 重ね継手			○ その他の鉄筋	○ 重ね継手	D13, D16		種類	材料	材質	径	本数ℓ/ℓ等	適用箇所	・ スリット鉄筋	鉄筋コンクリート用棒鋼	SR235	6	スリット径の径(mm)	図示				9	スリット径のℓ/ℓ(mm)	・ はしご筋	鉄筋コンクリート用棒鋼(異形鉄筋)	SD295A	D10	壁面内方向	()					壁面外方向	()	<p>8章 2 コンクリート工事</p> <p>○ コンクリートの種類 [8.1.3]</p> <p>コンクリートの種類</p> <p>・ 類(JIS A 5308に適合したコンクリート)</p> <p>・ 類(JIS A 5308への適合を認証されたコンクリート) [8.1.3、4][8.2.5][8.9.2]</p> <p>・ 普通コンクリート</p> <table border="1"> <tr> <th>設計基準強度(N/mm²)</th> <th>気乾単位容積質量(t/m³)</th> <th>スランプ(cm)</th> <th>適用箇所</th> </tr> <tr> <td>・ 24</td> <td>・ 2.3程度</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>○ 21</td> <td>・ 2.3程度</td> <td></td> <td>打ち増補強部</td> </tr> </table> <p>構造体強度補正值 ・ 改修標準仕様書8.2.4による</p> <p>○ セメント [8.2.5]</p> <p>種類</p> <table border="1"> <tr> <th>セメントの種類</th> <th>適用箇所</th> </tr> <tr> <td>普通ポルトランドセメント、高炉セメントA種、シリカセメントA種又はフライアッシュセメントA種</td> <td>建物躯体(下記以外)</td> </tr> <tr> <td>・ 高炉セメントB種 [G]</td> <td></td> </tr> <tr> <td>・ フライアッシュセメントB種 [G]</td> <td></td> </tr> </table> <p>普通ポルトランドセメントの品質は、JIS R 5210に示された規定の他、水和熱が7日目で352J/g以下かつ28日目で402J/g以下のものとする。</p> <p>○ 骨材 [8.2.5]</p> <p>使用骨材のアルカリシリカ反応による区分</p> <p>・ B A</p> <p>○ 混和材料 [8.2.5]</p> <p>・ 混和剤</p> <p>混和剤の種類</p> <p>標準仕様書 8.2.5(4)(a)による</p> <p>・ 混和材</p> <p>混和材の種類</p> <p>標準仕様書 8.2.5(4)(a)による</p> <p>・ 無筋コンクリート [8.11.1]</p> <p>コンクリートの種類</p> <p>・ 普通コンクリート</p> <p>設計基準強度$F_c(N/mm^2)$ ・ 18N/mm²</p> <p>スランプ ・ 15cm又は18cm</p> <p>セメントの種類</p> <p>普通ポルトランドセメント、高炉セメントA種、シリカセメントA種又はフライアッシュセメントA種</p> <p>・ 高炉セメントB種 [G]</p> <p>・ フライアッシュセメントB種 [G]</p> <p>適用箇所 ・ 図示による()</p> <p>・ 打ち継ぎの位置、ひび割れ誘発目地、打継目地 (6.6.4)(6.8.1)</p> <p>打継ぎの位置</p> <p>・ 図示による()</p> <p>目地寸法</p> <p>・ 標準仕様書 9.7.3(1)(ア)～(ウ)による</p> <p>・ 図示による()</p> <p>ひびわれ誘発目地の間隔・位置・形状・寸法</p> <p>・ 図示による()</p> <p>○ 構造体コンクリートの仕上げ [8.1.4]</p> <p>合板せき板を用いるコンクリートの打放し仕上げ</p> <table border="1"> <tr> <th>種別</th> <th>適用箇所</th> </tr> <tr> <td>・ A種</td> <td></td> </tr> <tr> <td>・ B種</td> <td></td> </tr> <tr> <td>・ C種</td> <td></td> </tr> </table> <p>コンクリート仕上りの平たんさ</p> <table border="1"> <tr> <th>種別</th> <th>適用箇所</th> </tr> <tr> <td>・ a種</td> <td></td> </tr> <tr> <td>・ b種</td> <td></td> </tr> <tr> <td>・ c種</td> <td></td> </tr> </table> <p>外部に面するコンクリート打放し仕上げの打増し厚さ</p> <p>・ 20mm ・ 図示による()</p> <p>外装タイル後張り面のコンクリートの打増し厚さ</p> <p>・ 20mm ・ 図示による()</p> <p>○ 型枠 [8.2.7]</p> <p>せき板の材料及び厚さ</p> <p>○ 合板(・ 12mm)</p> <p>MCR工法用シート</p> <p>適用箇所 ・ 図示による()</p> <p>スリーブ材</p> <p>改修標準仕様書8.2.7(f)(2)(i)又は()による</p> <p>・ 断熱材兼用型枠 (6.8.2)</p> <p>使用箇所 図示による</p> <p>厚さ 20～40mm</p> <p>熱抵抗値 0.73m²K/W以上を有するものとする。建築技術評価「断熱材兼用型枠工法の開発」において評価を取得したもの、又は同等以上とする。</p>	設計基準強度(N/mm ²)	気乾単位容積質量(t/m ³)	スランプ(cm)	適用箇所	・ 24	・ 2.3程度			○ 21	・ 2.3程度		打ち増補強部	セメントの種類	適用箇所	普通ポルトランドセメント、高炉セメントA種、シリカセメントA種又はフライアッシュセメントA種	建物躯体(下記以外)	・ 高炉セメントB種 [G]		・ フライアッシュセメントB種 [G]		種別	適用箇所	・ A種		・ B種		・ C種		種別	適用箇所	・ a種		・ b種		・ c種		<p>・ 型枠の加工及び組立 [8.7.8]</p> <p>シアコネクタをセパレーターとして使用</p> <p>使用箇所 ・ 図示による()</p> <p>○ コンクリートの打込み工法等 [8.21.8][8.23.5～7]</p> <p>コンクリートの打設工法の種類</p> <table border="1"> <tr> <th>補強工事</th> <th>打設工法の種類</th> <th>適用箇所</th> </tr> <tr> <td rowspan="2">○ 現場打ち鉄筋コンクリート壁の増設工事</td> <td>○ 工法指定なし</td> <td>○ 全ての増設壁</td> </tr> <tr> <td>・ 流込み工法 8.21.8(1)(ア)、(2)</td> <td>・ 全ての増設壁</td> </tr> <tr> <td></td> <td>・ 圧入工法 8.21.8(1)(イ)、(3)</td> <td>・ 全ての増設壁</td> </tr> <tr> <td></td> <td>・</td> <td>・ 図示による()</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">・ 溶接金網巻き及び溶接閉鎖フープ巻き工法</td> <td>・ 工法指定なし</td> <td>・ 全ての増設壁</td> </tr> <tr> <td>・ 流込み工法 8.21.8(1)(ア)、(2)</td> <td>・ 全ての増設壁</td> </tr> <tr> <td></td> <td>・ 圧入工法 8.21.8(1)(イ)、(3)</td> <td>・ 全ての増設壁</td> </tr> <tr> <td></td> <td>・</td> <td>・ 図示による()</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">・</td> <td>・ 工法指定なし</td> <td></td> </tr> <tr> <td>・ 流込み工法 8.21.8(1)(ア)、(2)</td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td>・ 圧入工法 8.21.8(1)(イ)、(3)</td> <td></td> </tr> </table> <p>鋼板巻き工法及び帯板巻き付け工法での型枠等</p> <p>柱頭及び柱脚の間隔の寸法</p> <p>・ 図示による()</p> <p>柱頭及び柱脚の間隔部間の型枠</p> <p>・ 発泡プラスチック保温材等を埋込む</p> <p>既存柱外周部あと打ちコンクリート又は構造体用モルタルの厚さ</p> <p>・ 図示による()</p> <p>補強後の仕上げ</p> <p>・ 図示による()</p> <p>○ あと施工アンカー [8.2.4]</p> <p>あと施工アンカーの種類</p> <p>・ 金属系アンカー(耐震補強用)</p> <p>・ 引張耐力 ・ kN ・ 図示による()</p> <p>・ セン断耐力 ・ kN ・ 図示による()</p> <p>アンカー本体の径及び埋込み長さ</p> <p>・ 図示による(耐震補強共通図)</p> <p>セット方式 ・ 本体打込み式改良型</p> <p>接合金の種類、径、長さ ・ 図示による()</p> <p>・ 性能確認試験</p> <p>試験及び試験数 ・ 図示による()</p> <p>○ 接着系アンカー</p> <p>・ 引張耐力 ・ D16 43.4 kN D13 10.2 kN</p> <p>・ セン断耐力 ・ D16 33.8 kN D13 21.6 kN</p> <p>アンカーの種類 ・ カプセル方式回転・打撃式</p> <p>接着剤の品質</p> <p>○ 有機系 ・ 無機系</p> <p>アンカー本体の径及び埋込み長さ</p> <p>○ 図示による()</p> <p>アンカー筋の種類 ・ 異形鉄筋(SD295A)</p> <p>アンカー筋の新設壁内への定着の長さ</p> <p>○ 図示による()</p> <p>・ 性能確認試験</p> <p>試験及び試験数 ・ 図示による()</p> <p>○ 穿孔 [8.12.4]</p> <p>埋込み配管等の探査方法</p> <p>鉄筋探知機(金属探知器)により探査し、鉄筋、配管類の位置に墨出しを行う</p> <p>・ はつり出しによる</p> <p>○ 施工確認試験 [8.12.7]</p> <p>試験方法</p> <p>・ 引張試験機による試験</p> <p>確認強度</p> <p>図示による(耐震補強共通図)</p> <p>○ あと施工アンカーの穿孔工法</p> <p>耐震改修部位に使用するD13以上のあと施工アンカーは、ケーシング又はダイヤモンドビット等を用いた低騒音工法を採用する。</p>	補強工事	打設工法の種類	適用箇所	○ 現場打ち鉄筋コンクリート壁の増設工事	○ 工法指定なし	○ 全ての増設壁	・ 流込み工法 8.21.8(1)(ア)、(2)	・ 全ての増設壁		・ 圧入工法 8.21.8(1)(イ)、(3)	・ 全ての増設壁		・	・ 図示による()	・ 溶接金網巻き及び溶接閉鎖フープ巻き工法	・ 工法指定なし	・ 全ての増設壁	・ 流込み工法 8.21.8(1)(ア)、(2)	・ 全ての増設壁		・ 圧入工法 8.21.8(1)(イ)、(3)	・ 全ての増設壁		・	・ 図示による()	・	・ 工法指定なし		・ 流込み工法 8.21.8(1)(ア)、(2)			・ 圧入工法 8.21.8(1)(イ)、(3)		<table border="1"> <tr> <td>工事件名</td> <td colspan="3">階上灯台改良改修工事</td> <td>令和3年度</td> </tr> <tr> <td>箇所名</td> <td>階上灯台</td> <td>図番</td> <td colspan="2">S-01</td> </tr> <tr> <td>図面名称</td> <td>構造特記仕様書</td> <td>縮尺</td> <td>原図</td> <td>A3版</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">  第二管区海上保安本部 交通部 </td> <td>設計</td> <td>年月</td> <td colspan="2">R3.7</td> </tr> <tr> <td>門脇</td> <td colspan="3"></td> </tr> </table>	工事件名	階上灯台改良改修工事			令和3年度	箇所名	階上灯台	図番	S-01		図面名称	構造特記仕様書	縮尺	原図	A3版	 第二管区海上保安本部 交通部	設計	年月	R3.7		門脇			
	種類	種類の記号	鉄線の形状、網目、寸法、鉄線の径(mm)	使用部位																																																																																																																																																							
・ 溶接金網	WFP																																																																																																																																																										
・ 鉄筋格子																																																																																																																																																											
適用箇所	継手方法	呼び径(mm)																																																																																																																																																									
・ 柱、梁の主筋	・ ガス圧接	・ 機械式継手	・ 溶接継手																																																																																																																																																								
・ 耐力壁	・ 重ね継手																																																																																																																																																										
○ その他の鉄筋	○ 重ね継手	D13, D16																																																																																																																																																									
種類	材料	材質	径	本数ℓ/ℓ等	適用箇所																																																																																																																																																						
・ スリット鉄筋	鉄筋コンクリート用棒鋼	SR235	6	スリット径の径(mm)	図示																																																																																																																																																						
			9	スリット径のℓ/ℓ(mm)																																																																																																																																																							
・ はしご筋	鉄筋コンクリート用棒鋼(異形鉄筋)	SD295A	D10	壁面内方向	()																																																																																																																																																						
				壁面外方向	()																																																																																																																																																						
設計基準強度(N/mm ²)	気乾単位容積質量(t/m ³)	スランプ(cm)	適用箇所																																																																																																																																																								
・ 24	・ 2.3程度																																																																																																																																																										
○ 21	・ 2.3程度		打ち増補強部																																																																																																																																																								
セメントの種類	適用箇所																																																																																																																																																										
普通ポルトランドセメント、高炉セメントA種、シリカセメントA種又はフライアッシュセメントA種	建物躯体(下記以外)																																																																																																																																																										
・ 高炉セメントB種 [G]																																																																																																																																																											
・ フライアッシュセメントB種 [G]																																																																																																																																																											
種別	適用箇所																																																																																																																																																										
・ A種																																																																																																																																																											
・ B種																																																																																																																																																											
・ C種																																																																																																																																																											
種別	適用箇所																																																																																																																																																										
・ a種																																																																																																																																																											
・ b種																																																																																																																																																											
・ c種																																																																																																																																																											
補強工事	打設工法の種類	適用箇所																																																																																																																																																									
○ 現場打ち鉄筋コンクリート壁の増設工事	○ 工法指定なし	○ 全ての増設壁																																																																																																																																																									
	・ 流込み工法 8.21.8(1)(ア)、(2)	・ 全ての増設壁																																																																																																																																																									
	・ 圧入工法 8.21.8(1)(イ)、(3)	・ 全ての増設壁																																																																																																																																																									
	・	・ 図示による()																																																																																																																																																									
・ 溶接金網巻き及び溶接閉鎖フープ巻き工法	・ 工法指定なし	・ 全ての増設壁																																																																																																																																																									
	・ 流込み工法 8.21.8(1)(ア)、(2)	・ 全ての増設壁																																																																																																																																																									
	・ 圧入工法 8.21.8(1)(イ)、(3)	・ 全ての増設壁																																																																																																																																																									
	・	・ 図示による()																																																																																																																																																									
・	・ 工法指定なし																																																																																																																																																										
	・ 流込み工法 8.21.8(1)(ア)、(2)																																																																																																																																																										
	・ 圧入工法 8.21.8(1)(イ)、(3)																																																																																																																																																										
工事件名	階上灯台改良改修工事			令和3年度																																																																																																																																																							
箇所名	階上灯台	図番	S-01																																																																																																																																																								
図面名称	構造特記仕様書	縮尺	原図	A3版																																																																																																																																																							
 第二管区海上保安本部 交通部	設計	年月	R3.7																																																																																																																																																								
	門脇																																																																																																																																																										
8章 1 鉄筋工事	<p>○ 鉄筋 [8.2.1]</p> <p>鉄筋の種類等</p> <table border="1"> <tr> <th>種類の記号</th> <th>呼び径(mm)</th> <th>備考</th> </tr> <tr> <td>○ SD295A</td> <td>D13, D16</td> <td></td> </tr> <tr> <td>・ SD345</td> <td></td> <td></td> </tr> </table>	種類の記号	呼び径(mm)	備考	○ SD295A	D13, D16		・ SD345																																																																																																																																																			
種類の記号	呼び径(mm)	備考																																																																																																																																																									
○ SD295A	D13, D16																																																																																																																																																										
・ SD345																																																																																																																																																											

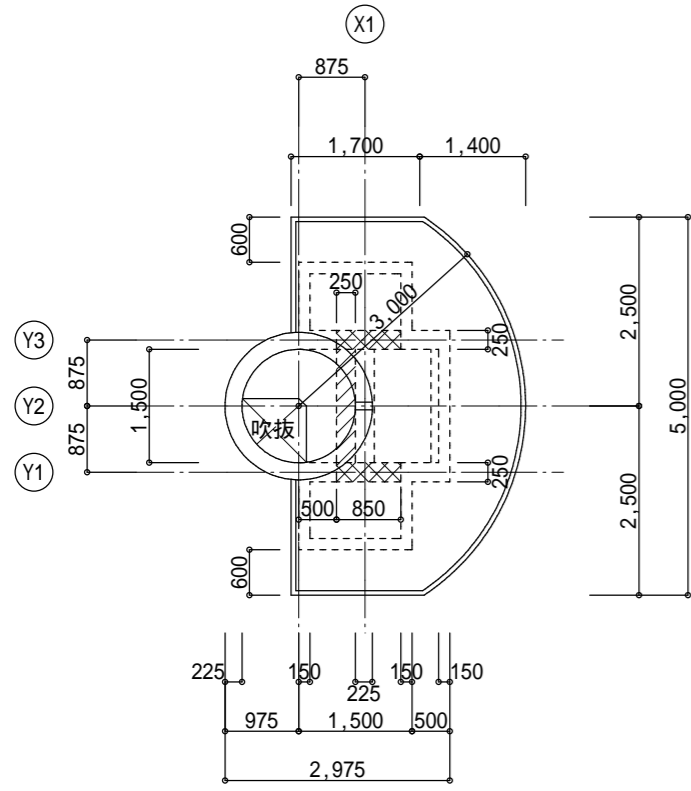


工事件名 階上灯台改良改修工事	令和3年度	
箇所名 階上灯台	図番 S-02	
図面名称 既存伏図	縮尺 図示	原図 A3版
設計 第二管区海上保安本部 交通部	年月 門脇	R3.7



工事件名 階上灯台改良改修工事		令和3年度	
箇所名 階上灯台		図番 S-03	
図面名称 既存軸組図		縮尺 図示	原図 A3版
 第二管区海上保安本部 交通部		設計 門脇	年月 R3.7

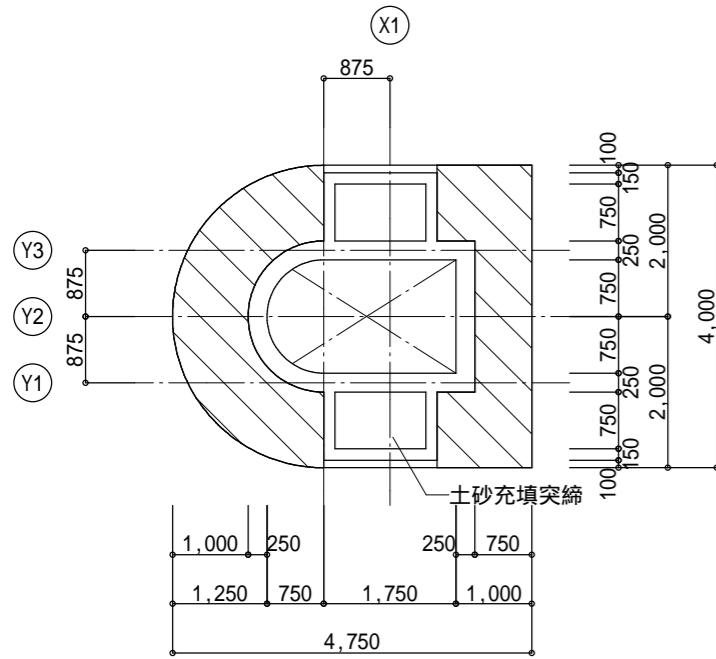
補強伏図・軸組図 S=1/100



補強2階伏図 S=1/100

特記なき限り 下記による。

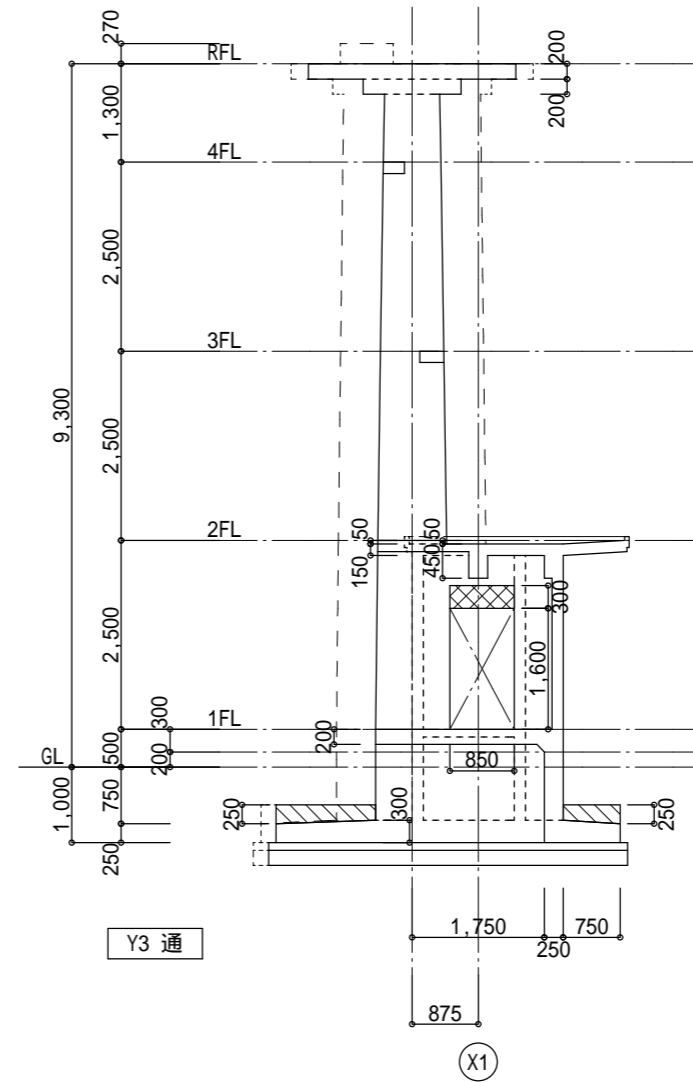
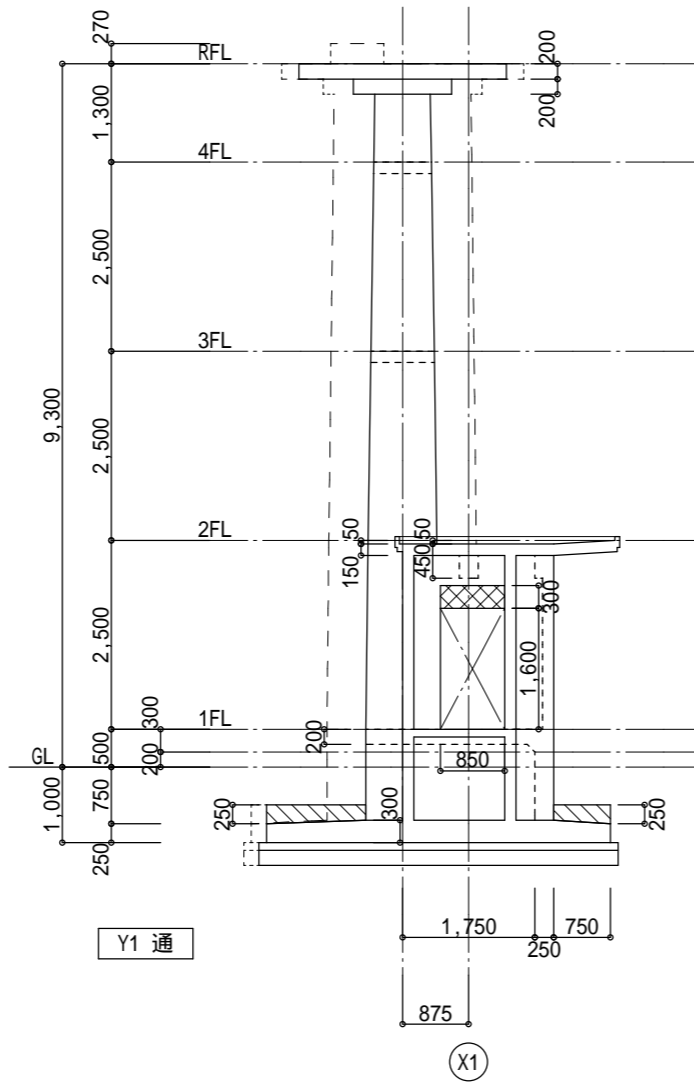
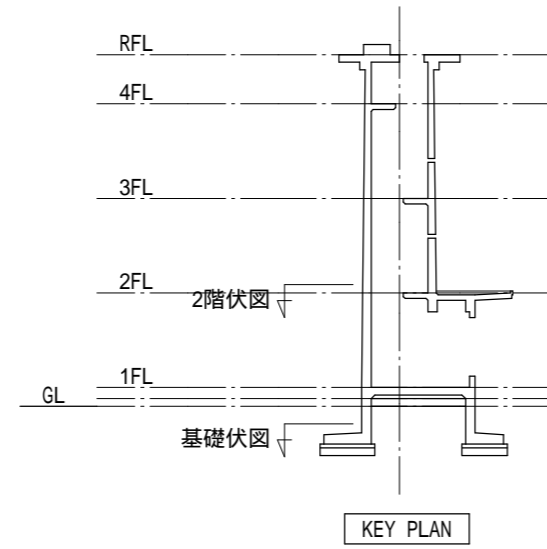
1. 印は 梁側面打増し補強を示す。
2. 印は 梁下端打増し補強を示す。



補強基礎伏図 S=1/100

特記なき限り 下記による。

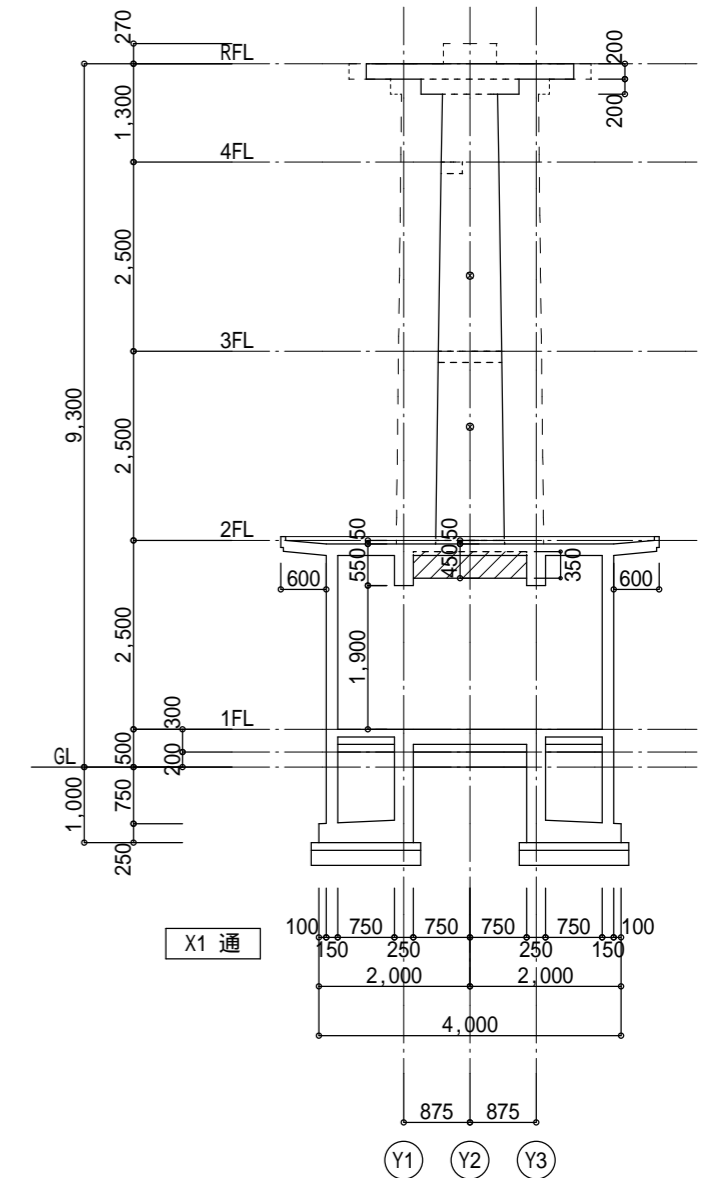
1. 印は 基礎上端打増し補強を示す。



補強軸組図 S=1/100

特記なき限り 下記による。

1. 印は 梁側面打増し補強を示す。
2. 印は 梁下端打増し補強を示す。
3. 印は 基礎上端打増し補強を示す。



使用材料
コンクリート：Fc21
鉄筋：SD295A

工事件名 階上灯台改良改修工事	令和3年度
箇所名 階上灯台	図番 S-05
図面名称 補強伏図・軸組図	縮尺 原図 A3版
第二管区海上保安本部 交通部	設計 年月 門脇 R3.7

